

社 会 科 教 室

第 152 号

平成 22 年度

香川県小学校教育研究会社会科部会
香川県小学校社会科教育研究会

は じ め に

新学習指導要領に向けた移行期の最終年度を迎えました。いよいよ、来年度から新学習指導要領が完全実施となります。今回の改訂では社会科の方向性について、小学校学習指導要領解説「社会編」で、次のような改善の基本方針が述べられています。

- ・社会的事象に関心をもって進んでかわり、社会的事象の意味や働きを多面的・多角的に考え、公正に判断できるようにするとともに、児童生徒一人一人に社会的な見方や考え方が次第に養われるようにする。
- ・社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得し、それらを活用する力や課題を探究する力を身に付けていくために、習得すべき知識、概念や技能を明確にする。
- ・各種の資料を効果的に活用し、社会的事象の意味などを解釈したり事象の特色や事象間の関連を説明したりするなどの言語活動を重視する。

さらに、言語活動の充実を図るべく次のような学習を展開していくことも述べられています。

- ・問題解決的な学習などの一層の充実
- ・観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し的確に記録する学習
- ・比較・関連付け・総合しながら再構成する学習
- ・考えたことを自分の言葉でまとめ、伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習 など

こういったことを踏まえて香社研では、平成24年度の香小研大会、平成28年度の全国小学校社会科学研究協議会全国大会・香小研大会の開催に向け、昨年度から『「社会科ノート」による思考力の育成～新学習指導要領に基づく社会科をひらくカリキュラムによる～』を研究主題とし3年計画で研究を深めているところです。昨年度「学ぶ意欲を高める学習の工夫」を視点として研究を推進してきました。その成果を踏まえ、本年度は「学習材の開発により、集団と個のかかわりを深める」を視点として、各郡市社研において研究を進めていただき、定例研修会において各郡市の研究成果や課題を公表することにより、研究をさらに深めていけたらと考えています。そして、平成23年度の視点「確かな学力を見取る評価」へと研究をつなげていこうと考えているところです。

特に、本年7月28日（水）には、さぬき・東かがわ社研の担当でさぬき市の志度音楽ホール、志度社会福祉センター他を会場に香小研社会科部会研修会夏季研修会が開催されます。さぬき・東かがわ社研では、「思考力の育成をめざした地域プランの開発」を研究主題として各学年の授業提案・課題提案を行い、香川県下の先生方と意見を交わすとともに、文部科学省初等中等教育局教科調査官 澤井 陽介先生のご指導を受けることになっています。

我々の研究をより深めるためにも、日常の授業研究とともに、会員の先生方が夏季研修会や定例研修会、研究フォーラムに積極的に参加されることを期待したいと思います。

香川県小学校教育研究会社会科部会
香 川 県 小 学 校 社 会 科 研 究 会
(部) 会 長 佐藤 正文

平成22年度 香社研の研究の方向性について

香社研研究部

《研究主題》

「社会科ノート」による思考力の育成

— 新学習指導要領に基づく社会科をひらくカリキュラムによる —
— 平成22年度研究の視点 「学習材の開発により、集団と個のかかわりを深める」 —

I はじめに

平成 22 年度の香社研の研究を進めるにあたり、平成 20 年度四国社会科教育研究大会の研究と 21 年の研究の成果を踏まえ、今後の研究を深めていきたい。そして、平成 24 年度香小研大会、平成 28 年度全国社会科教育研究大会に向けて、研究を積み重ねていきたい。その目標を目指して研究主題「社会科ノート」による思考力の育成にあるように、思考力の育成を「社会科ノート」の研究によって充実させたい。その充実に向けて平成 21 年度は、『学ぶ意欲を高める学習の工夫』の視点から追究してきた。これを土台に平成 22 年度は、『学習材の開発により、集団と個のかかわりを深める』という視点から、研究主題に迫っていきたいと考えている。

II 研究の方策

1 研究計画の立案

(1) 研究の視点(3年計画)

視点Ⅰ 主に1年次(平成21年度) ・学ぶ意欲を高める学習の工夫	
視点Ⅱ 主に2年次(平成22年度) ・学習材の開発により、集団と個のかかわりを深める	※今年度の重点
視点Ⅲ 主に3年次(平成23年度) ・確かな学力を見取る評価	

(2) 長期の計画(平成21年度～平成28年度)

21年度 (坂・綾)	22年度 (小,さ・東)	23年度 (三・観)	24年度 県大会	25年度	26年度	27年度	28年度 全国大会
Ⅰ期			Ⅱ期		Ⅲ期		
研究主題（3年計画）			◎ 21,22,23 年度の研究を受けて、県大会の開催 ◎ これまでのまとめと新しい教育の動きを見て、大会主題（仮）の設定 ◎ 新指導要領に向けての動きの始まり		◎ 全国大会（県大会）に向けての準備 ◎ 27 年度には、大会主題の決定 ◎ 新指導要領改訂が具体的になってくるので、それを受けての研究推進		
視点Ⅰ	視点Ⅰ	視点Ⅰ 視点Ⅱ					
	視点Ⅱ	視点Ⅲ					

2 研究成果を踏まえて

(1) 平成20年度四国社会科研究大会の研究から

研究主題設定の理由

「社会科をひらく」カリキュラムによる研究を基盤にして

今起きている環境問題一つをとっても、ある自然現象として現れているもののなかには、社会科学的な側面からとらえることも必要になっていることは明らかである。また、その逆も言えるのではないだろうか。

つまり、今日ほど複雑化した社会構造の中では、一人ひとりの人間が生きているという現実においては、諸科学の分化というよりはむしろ、諸科学の総合を含まなければならないということである。これは、小学校社会科が総合社会科としての性格を有していることと価値を同じくする点である。

こうした点から、社会科の内容を考える際には「社会科をひらく」という視点が大切になってくる。

従来までのように3年生の「わたしのまち、みんなのまち」は主として地理的内容から、4年生の「郷土の開発」は歴史的内容から迫る等といった単元の特色に応じて地理的内容、歴史的内容、公民的内容を分けてそれぞれの内容から迫っていくという領域別学習からの脱却を図りたい。

そして、真に実社会、実生活に生きて働く資質・能力を育成するためにも、社会諸科学（地理学、歴史学、政治学、経済学、社会学等）を相互に横断した（ひらく）内容から迫るだけでなく、人文科学、自然科学等、他科学の研究成果も同時に取り入れる（ひらく）ことによって、いわば社会事象を総合的な側面から考察できるように「ひらかれた社会科学習」を創造していくこととする。

こうした基本的な考え方の上に立って、年間指導計画案（試案）の作成を行い、子どもたち一人一人の学力向上を目指した「社会科経営の構想」を創っているところである。

また、これまで学校と家庭の連携の要となる「社会科ノート」を通じて、「見える学力」である知識・理解のみを重視した研究だけではなく、「育てたい力（見えにくい学力）」といわれる思考力・判断力、資料活用の技能・表現等も大切にしたい学力向上に向けての取組を行い、学校評価としての説明責任・結果責任にもつながる研究を行っている。さらに、学校週五日制のもと、子どもたちにある程度自由に活動ができる時間的余裕が与えられた中での自己の学びの充実をどう図っていくかが、学習習慣の形成、学習意欲の向上と大きくかかわって問われている。

そこで、家庭学習の充実のための方策、学校と家庭、地域との協働型学習への転換等という視点から、学習指導の工夫・改善を図っている。

今後とも前述した研究の方向を大切にしつつ、1単位時間の授業改善のための研究実践にとどまるのではなく、各学校の学校改善に寄与する香川県小学校社会科経営に向けた研究を進めていきたいと考えている。

(2) 平成21年度「学ぶ意欲を高める学習の工夫」の研究から

〈主張点①〉指導計画に教科書教材・副読本教材の活用を重視して、社会科授業の日常化を図る

社会科学習を意欲をもって学習する、それも日常化していくためには、どの学校もどの子どもも教師も保護者も手元にある「教科書教材」を有効に活用することによって社会科授業の日常化を図っていくことを模索したい。

「教材」は、「素材・資料」を学習として意味あるものとして解釈し、値打ちあるものにして活用するものである。これが教師の「教材観」なのである。教科書教材を使って、どう現象を見取り、どう考え、どのような意味としてとらえ、そして、自分の考えを表現するかが教材を値打ちあるものにできるのである。このことを「教材の構造化」としてとらえていきたい。

この「教材の構造化」を2つの点から考えたい。

1つは、教科書教材の「基礎・基本の事項と内容」の構造化である。教科書教材を①基礎・基本の内容は何か②それを支える基礎・基本の事項は何かで分析し、関係づけ、構造づけること「知識の構造」というものである。

2つは、教科書教材を学ぶ意欲づくりの「何を」と「どのように」から、学びの内容と方法によって構造づける

ものである。これは、「思考の構造」と言えるものである。個に応じて見つめ、考え、表す喜びから真の分かる喜びを味わうことのできる構造づけを問いたいと考えている。

そして、香社研「社会科をひらくカリキュラム」は、香川県下各校が作成する社会科指導計画の基盤となるものである。実際の授業にあたっては、地域や学校や子どもの実態に応じて、指導計画を改善・作成しなければならない。「学ぶ意欲」を高めるには、まず、指導計画の改善が強く求められる。

現在、教育現場では、どの教科等の授業においても教科書等を使った一斉授業が行われがちではないだろうか。中には、教科書をなぞるような授業、教師用指導書による単元計画・学習計画による授業でよしとしていることもあるのではないだろうか。そのような場合、教師もつまらないと思いながら授業をするようになる。これでは、学習意欲は決して起こらない。学ぶ意欲を高めるには、まず教師が「これはおもしろい。」「日常生活や社会とつながり、子どもの将来の夢や職業にもつながっている。」「知的好奇心も効力感がもてる」と感じられるような『教材の値打ち』が重要な鍵をもつ。ネタ的な教材を教師が与えるのでは、その一時の意欲づくりにしかならない。

教師の意識が変わるきっかけは、授業改善によって子どもの反応が大きく変わる瞬間である。これはおそらくどの教師にも共通する内発的なきっかけである。その点でカリキュラムマネジメントは、「論より証拠」を求めている。その証拠では、授業改善の効果を示すことが必要である。

それは、教員がチームで授業を起点にカリキュラムを改善する試みである。授業技術の改善のみならず、単元や年間指導計画の改善も視野に入れる必要がある。

〈主張点②〉「学ぶ意欲」を高めるとは～「子ども主義」に立つことである～

子どもは、対象に思いや願いをもつことができれば、自ずと意欲が高まり、自ら進んで活動したり、活動そのものに喜びを感じたりして、主体的にねばり強く活動する。それは、何かやりがいのあることを成し遂げたいという欲求、達成動機があるからである。「動機づけ」とは、何らかの行動を引き起こし、ある方向に向け、それを持続させる過程と定義されている。また、「達成動機」とは、活動の結果、成功や失敗として表れるような場面において、できるだけ高いレベルでものごとを成し遂げようとする動機で、いわゆる「やる気」である。そして、達成動機が高い子どもは失敗を恐れず成功を求め、自分の能力に適した少し難しい課題に挑戦する。一方、達成動機の低い子どもは、失敗を避けようとする気持ちが強く、確実に成功する課題か、ほとんど成功の見込みがない課題を選ぶとされている。

さて、「動機づけ」には、外発的動機づけと内発的動機づけがあるとされている。外発的動機づけは、何か物質的な賞罰とか賞賛・叱責における動機づけであり、内発的動機づけは、ある活動すること自体を自己目的的に求める欲求による動機づけである。そして、外発的動機づけと内発的動機づけについては、内発的動機づけを重視するのであるが、この2つは対立的に捉えるのではなく、連続的に移行すると考えたり、対象への働きかけのちがいで捉え方を工夫して生かすというカウンセリング的な考えを取り入れたりすることが望まれる。

内発的動機づけの柱は、知的好奇心である。「知的好奇心」には、拡散的好奇心と特殊的好奇心がある。拡散的好奇心は、多様な幅広い情報に方向性をもたずに働きかけ、興味・関心のある情報に知的に好奇心をもつものであり、特殊的好奇心は、集中的に事象を追求する好奇心である。拡散的好奇心は創造的思考力を、特殊的好奇心が論理的な好奇心を育てるものになるものと言える。

ところで、現実の学級では、外発的動機づけに片寄ったり、外発的動機づけも内発的動機づけももたないほどに、学ぶ意欲を失いかけている子どもたちがいるのではないだろうか。いくら、教師が教材の価値を研究して生かそうとしても、その働きかけに応じようとしない子どもが何人かいる傾向になってはいないだろうか。いったい、何が子どもたちの学ぶ意欲を失わせているのかが課題なのである。おそらく、個々に応じた基礎学力が身に付く学習でなかったり、学習習慣が形成されていなかったり、心身の健康上の問題があったりなど様々な要因によるものだろう。

しかし、多くの場合、自己効力感、自尊感情が弱くなっていることが大きいのではないだろうか。自分の能力に対する自信やよさをもつことが失われつつあるからであろう。「自己効力感」は、効力期待から効力期待結果によって育てられる。効力期待は、こんな活動や練習などに取り組むことによって効力結果を期待する感情であり、成果を上げる結果を得よう活動や結果などに取り組もうとする感情である。自己効力感を高め、「わかる」ことが「喜び」に結びつく学習は、そう簡単に実現しない。今までの仕方や考え方で「わかる」のでは、「喜び」になら

ない。個人差、個性差に応じ、新しい知識なり技能なりを獲得することで「喜び」を得るものでなければならない。そこには、当然目的意識、問題意識をもつ解決・探究の過程が条件となる。

以上、「学ぶ意欲を高める」研究を支える「論」を述べてきた。このことを項目でまとめると、次の通りである。

- 動機づけは外発的動機づけと内発的動機づけがあり、内発的な動機づけを重視する。
- 内発的動機づけの柱は、知的好奇心であり、拡散的好奇心は創造的な思考力を特殊的好奇心は論理的思考力を育てるものになる。
- 自己効力感は、やる気をもって喜びに結びつく学びを求めるという効力期待と特殊結果期待により、高められる。

〈主張点③〉「学ぶ意欲」を高める考えを学習過程でとらえる

学ぶ意欲を高める学習の過程は、①問いをもつ、②問いを追求する、③問いを広げるといったそれぞれの段階に分けて考えることができる。

- ① 問いをもつ……子ども自らが生み出すことが大切、追求への意欲を育てることが中心
- ② 問いを追求する……表現活動を中心に据え、学び方を援助、交流の場を工夫することが大切
- ③ 問いを広げる……伸びを認める、社会の一員としての自覚、次の学習への出発点

Ⅲ 研究主題を探究する考え方

《「思考力の育成」にかかわる国の施策》

◎ 中央教育審議会答申(平成20年1月)より抜粋

5. 学習指導要領改訂の基本的な考え方

(4) 思考力・判断力・表現力等の育成

○ 3で示した子どもたちの学力に関する各種の調査の結果は、いずれも知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等に課題があることを示している。今回の改訂においては、各学校で子どもたちの思考力・判断力・表現力等を確実にはぐくむために、まず、各教科の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させることを重視する必要がある。

(中略)

○ 現在の各教科の内容、PISA調査の読解力や数学的リテラシー、科学的リテラシーの評価の枠組みなどを参考にしつつ、言語に関する専門家などの知見も得て検討した結果、知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等をはぐくむためには、例えば、以下のような学習活動が重要であると考えた。このような活動を各教科において行うことが、思考力・判断力・表現力等の育成にとって不可欠である。

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる(例示は省略)

○ これらの学習活動の基盤となるものは、数式などを含む広い意味での言語であり、その中心となるのは国語である。しかし、だからといってすべてが国語科の役割というものではない。それぞれに例示した具体の学習活動から分かるとおり、理科の観察・実験レポートや社会科の社会見学レポートの作成や推敲、発表・討論などすべての教科で取り込まれるべきものであり、そのことによって子どもたちの言語に関する能力は高められ、思考力・判断力・表現力等の育成が効果的に図られる。

このため、学習指導要領上、各教科の教育内容として、これらの記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要があることを明示すべきと考える。

◎ 学習指導要領解説総則編より抜粋

第1章 総説

2 改訂の基本方針

② 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。

確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要がある。

このため、各教科において基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実すること、さらに総合的な学習の時間を中心として行われる、教科等の枠を超えた横断的・総合的な課題について各教科等で習得した知識・技能を相互に関連付けながら解決するといった探究活動の質的な充実を図ることなどにより思考力・判断力・表現力等を育成することとしている。また、これらの学習を通じて、その基盤となるのは言語に関する能力であり、国語科のみならず、各教科等においてその育成を重視している。さらに、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、家庭との連携を図りながら、学習習慣を確立することを重視している。

第3章 教育課程の編成及び実施

第5節 教育課程実施上の配慮事項

2 体験的・問題解決的な学習及び自主的、自発的な学習の促進

(2) 各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、児童の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。

これからの学校教育においては、変化の激しいこれからの社会を考えたとき、また、生涯にわたる学習の基礎を培うため、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とともに、それらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等の育成を重視した教育を行うことが必要であり、児童がこれらを支える知的好奇心や探究心をもって主体的に学習に取り組む態度を養うことは極めて重要である。このような資質や能力を育成するためには、体験的な学習や基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習を充実する必要がある。

◎ 学習指導要領解説社会編より抜粋

第1章 総説

2 社会科改訂の趣旨

また、実際の授業では、問題解決的な学習などを一層充実させることや、観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し的確に記録する学習、それらを比較・関連付け、総合しながら再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習など言語活動の充実を図ることを求めている。

第2章 社会科の目標及び内容

2 学年の目標

(2) 各学年の目標の系統

③ 能力に関する目標

社会的な思考力や判断力について、第3学年及び第4学年では、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を、第5学年では、社会的事象の意味について考える力を、第6学年では、社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育てるようにすることを求めている。表現力については、いずれの学年においても、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにすることを求めている。

Ⅲ 研究主題を探究する考え方

1 思考力について

- (1) 思考力の発達
- (2) 思考力を育てること
 - ① 思考の構造と思考力の内面化
 - ② ことばと思考力

2 思考力を育てる「授業スキル」

- (1) 魅力的な授業の要件と研究の視点
- (2) 研究の視点① 「学習材の開発」
 - ① 教材と学習材
 - ② 「教材の構造」を明らかにする
 - ③ 教材を学習材として「思考の構造」を明らかにする
- (3) 研究の視点② 「個に応じた学習と集団と個のかかわり」
 - ① 「集団と個のかかわり」とは
 - ② 「個に応じた学習」について
 - ③ 「個に応じた学習」を支える言語活動と学習習慣

Ⅳ 研究主題を探究する具体策

1 学習観を明らかにもつこと

- (1) 求める学習観
- (2) 「学習の要訣」
 - ① 子ども中心
 - ② 批判的思考
 - ③ 創造的思考
 - ④ 課題や問題解決と評価

2 考える力を育てる学習に取り組むために

- (1) 考えを伝える(表現する)スタイルによる
～批判的思考と創造的思考を育てる「思考図」の開発～
- (2) 課題・学習問題関与意欲を高める
- (3) 授業のタイプにより学習の性格を明らかにする
 - ① 教材反応学習
 - ② 反応類型学習
 - ③ 課題選択学習
- (4) 内容による学習形態のちがい

3 社会科ノートにより思考の構造の視覚化を図る

- (1) 相互交流の視覚化を図る社会科ノート ～思考の構造の視覚化を図る～
 - ① 相手に分かりやすく、自分の考えを表現する
 - ② 相互交流の視覚化を図る
 - ③ 視覚情報化のポイント

4 社会科ノートを評価につなぐ

- (1) 「見える学力」「見えにくい学力」の評価
 - ① 「見える学力」の評価
 - ② 「育てたい力(見えにくい学力)」の評価

Ⅴ 「考える力を育てる」学習の具体的実践事例

実践の具体例 4年「わたしたちの県」の実践をもとにして

1 思考力について

(1) 思考力の発達

子どもの思考力は、経験の通して得たもの、こと、人について思考を働かせて解釈し、説明する能力を獲得することで発達していく。その過程は、技術（できる・できそう）から科学（わかる・なす）への発展の過程といえる。技術（できる・できそう）は、もっぱら対象にあたって、興味と断片的な知識をもとに知ろうとし、それを利用しようとするに関心が向けられる。そこで、簡単に問題解決して目標に達すればそれで終わってしまい、その過程を説明することはない。科学（わかる・なす）は目標達成のために、対象にあたって知り、その取り組みの結果に終わらず、さらに深く解決過程を意識して説明していくことに特徴がある。

このように、思考の発達は、目標に達することに関心をもち、周辺の活動の段階から始まって、具体的活動に意味を意識する段階を経て、最後に、反省的思考にもとづいた論理によって意識的に行動する段階へとすすんでいく。これを、ピアジェは、思考の発達の筋道といい、「周辺から中心への発達」として、特徴づけている。

(2) 思考力を育てること

① 思考の構造と思考力の内面化

思考力を育てるとは、「ものごとを構造的に把握する態度を育てることである。構造的な把握を行うために、種類や用途、場所、時間経過などで分析したり、類別したり、関係づけたり、条件を変えたりしながら、思考そのものが特色としてまとまっていなければならない。思考力を育てることは、思考を思考の構造化している過程としてとらえることが大切である。

思考力は、従来は、ただ、感受性、記憶、言語、数、推理などばらばらな能力のよせ集めとして、取り扱われてきた。そのため、これら個々の能力を別々に訓練することによって、思考力を発達させることができるものとしていた。だが、断片的な能力の訓練では、たとえ知識として覚えたり、技能として習熟できたものであっても、それだけで、思考力が育つことにはならない。

たしかに、読み、書き、算の技能は、思考力の発達の重要な道具である。しかし、その技能自体が、思考力の発達の原動力ではない。例えば、ことばが読めることと、ことばの意味を理解することとは違う。読みの技能は、習熟だけで獲得できるが、意味の理解は論理的思考の構造を前提とする。そして、この思考の構造は、子どものそれまでの成熟、経験、知識、技能などが組織的に統合されている全体なのであり、子どもの思考構造とのかかわりの中で、学習により、生きて働く思考力になるのである。

思考力は、正しい知識の積み重ねだけで思考力を伸ばそうとしてきた伝統的な教育方法で育たない。思考力を育てるには、子どもに正しい知識を理解させる手立てとして、わかりやすいことばで説明する、具体的な身近な例を示す、実験や実習を取り入れる、視聴覚機材を利用する、ユーモアを交えるなど、様々な工夫をして、わかる授業を進めなければならない。しかし、子どもは必ずしも教師が意図した通りの知識を理解するとは限らない。理解したように見えても、誤解、曲解が生じている。子どもは、教師の教えたことがらを覚えることはできる。しかし、そういう知識は、不安定で活用、応用がきかない。

この点から考えると、思考力を育てるために大切なのは、正しい知識の理解に当って、過ちやつまづき、意識のずれを自分で発見して、それを修正していく過程である。この自己評価を伴う活動は、思考の構造の中に確実に組み込んで、より正しく深い理解を進めていくことになる。これは「思考力の内面化」と呼ばれている。

このように、思考の質的な発達を促すためには、活動がある点でせき止められるような状況に立たせることが必要である。このせき止められる状況は、社会的事象の矛盾や対立の場面であり、課題や学習問題の設定などの学習活動に生かしていくことで、学習に意欲的に取り組むようになり、飛躍的な発展にもつながってくる。

② ことばと思考力

ことばは、思考の道具というよりは、思考の表現といった方が適切である。ことばに思考をつくり出すはたらきがあるわけではなく、思考が自分のことばを見出し、表現することになる。この思考による表現をもとに、話し合い活動としての交流が行われる。その際、表現することばがうまく選ばれなかったり、語彙が貧しかったりすると、思考が深まっていけない。豊かな思考は一度には成立しない。つまりきを克服するために、表現した自分のことばを見直してみるのが大切になってくる。この見直し、修正の時間こそ思考力を育てる上で大切なのである。

このように、話し合い活動・交流は、子どもの創造的思考の表現なのである。考えや思いを相手に理解されるように表現しながら、集団の中の個のかかわりとして、相手のことばの意味を見定めるのである。話し合い活動は、創造活動そのものであり、ことばの深層構造の部分は論理的な言語表現によるものであるのに対し、表層的構造は、創造的な言語表現、創造的思考によるものである。

2 思考力を育てる「授業スキル」

(1) 魅力的な授業の要件と研究の視点

魅力的な授業の要件をあげると、1つは「強い信念と説得力」をもって、一言一言に示唆と感銘を受ける授業である。2つには、自己研鑽の厳しい跡をもち「深い認識」を感じる授業である。3つには、子どもを「温かくにこやかな笑顔」で包み込む授業である。すなわち、魅力的な授業の要件は、この3つの教師力をもつ授業といえる。

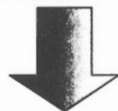
この3つの魅力的な授業を実践するには、「教える授業」から「学ぶ授業」への変革の鍵となる。そのためには「授業スキル」としての教師の技が必須である。この「授業スキル」の研究の視点として、研究主題「社会科ノート」による思考力の育成のもと、次の2つの研究視点を設定した。

研究の視点① 「学習材の開発」

～教材を学習材にすることで「思考の構造」を明らかにする～

研究の視点② 「個に応じた学習と集団と個のかかわり」

～個に応じた学習を進めるよう「集団の中での個のかかわり」を明らかにする～



社会科ノートによる思考力の育成

(2) 研究の視点① 「学習材の開発」

～教材を学習材にすることで「思考の構造」を明らかにする～

① 教材と学習材

「教材」とは、教科書教材に代表されるように、ある一定の目標を実現するために、基礎・基本の事項や内容を精選して取り入れた素材である。その形態は様々で、事物・事象という形、映像という形、言語や記号で表現した形など多様であり、一定の認識やイメージをもたせることができる。しかし、個々の子どものもつ認識・イメージづくりに応じるものとは言えないことから、従来は、教科書解釈や教材分析による教師の指導方法の工夫により補ってきた。

それに対して、「学習材」とは、個に応じた学びができる教材であり、「操作材」ともいえる。子どもの個々の学びが成立するためには、教材のもつ価値を十分に踏まえ、子どものもつ具体をもとにして、自然・社会・生活の事象と結び、具体的操作や形式的操作を通して思考や表現を促し、個々の子どもの認識やイメージを深化・拡充させていくことが重要である。今後、この「学習材」の開発が一層望まれる。

② 「教材の構造」を明らかにする

香社研では、平成20年度四国社会科教育研究大会において、社会科の学問的本質に立った「社会科をひらく」を論じ、方法として「ノートによる思考力の育成」に取り組んできた。これを基盤にして、教材と学習材について研究を進めていくことにする。

さて、教材は、どの教科等も学問的内容を子どもの発達や興味の実態に合うよう科学や芸術・文化から選ばれたもので構成されており、①「共通教材」として教科書・補助教材 ②「自主教材」として子どもが自主的に活用する参考図書、インターネット、その他の資料 ③「教師教材」として教師・専門家などが提供する資料があげられる。ところで、教材は、「素材・資料」ではない。教材は、学習の目標を達成するよう素材・資料を発達に合わせ精選し、価値づけたものである。このことから、①は教育法規に定められた教材であるのに対し、②と③は素材・資料を教材化しなければ「自主教材」「教師教材」にはならない。

しかし、日常の授業を見る時、①の教科書などの主たる教材によって発問と応答・支援による一斉授業の中で、②の子どもたちが自主的に調べた資料によって挙手による指名で学習内容をふくらませたり、③の教師などの資料・説話で深めたりしていることが多い。この場合、②の自主的に調べた子どもたちにとっては、自分の調べを入れた授業展開で意欲をもち満足であろうが、それは一部の子どもたちだけの学習の成立としかならない。このことが、社会科学学習を楽しくしていない大きな原因とも考えられよう。すべての子どもたちが社会科学学習を好きになり、思考力を育てる学習にしたいものである。

そのために、①「共通教材」②「自主教材」③「教師教材」を入れた「教材の精選」を明らかにする教材の構造化を授業スキルとして取り組みたい。まず、「教材の構造」は、学習指導要領と教科書や補助教材を分析し、「基礎基本の事項」と「内容」を明らかにし、それを基盤とする。(A)

次に、「教材の構造」の中心になる「共通教材」である。教科書・補助教材の内容を中心教材と関連教材を構造化して図示する。(B)更に、その図示の周辺に「自主教材」と「教師教材」を関連付ける。(C)この際、子どもが自主的に調べた資料を教材化する手立て、及び教師や専門家の資料をどのように教材化するかが今後の研究の課題となる。では、「教材の構造」について具体例を紹介する。

(A) 教科書分析(基礎・基本の事項と内容)

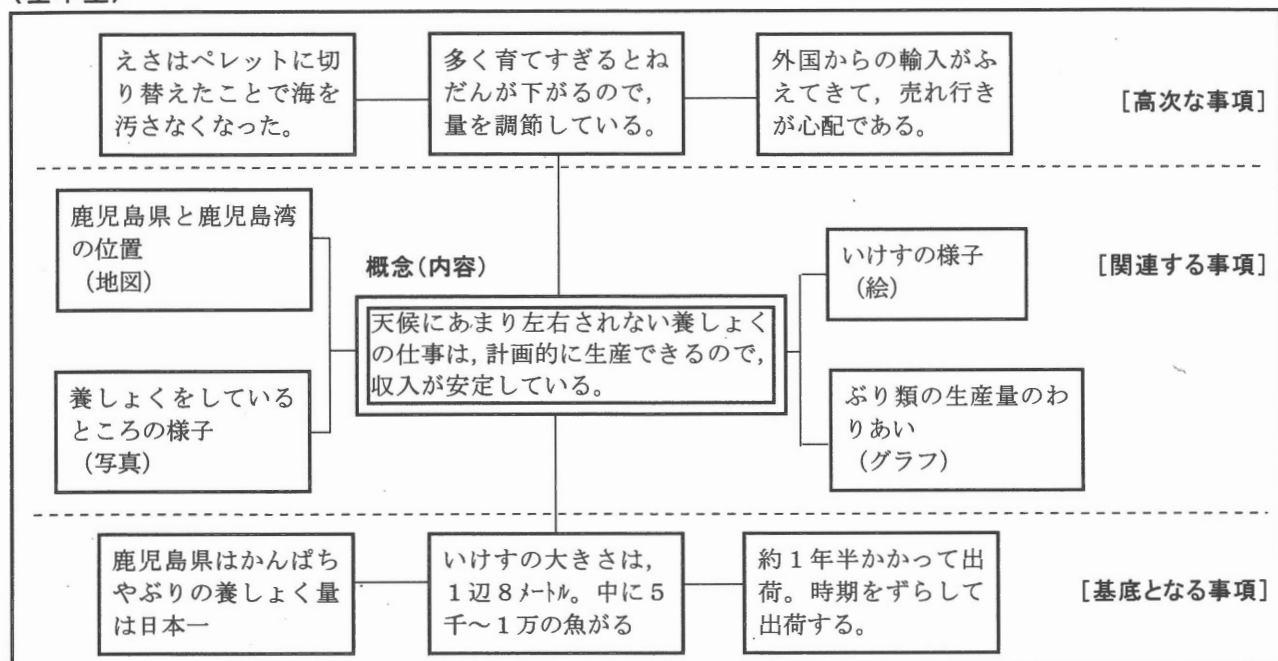
第 5 学年 単元名「水産業のさかな枕崎市」

型	頁	教科書にみる基礎・基本の事項(○)と内容()
探究型	27	○まきあみ漁は効率がよい ○かつお節 ○遠洋かつお船は冷凍設備がある ○一本づりは、新鮮さが保たれる 遠洋かつお漁は、まきあみ漁と一本づりの2つの特徴を生かしている。
	28	○漁業生産量 ○沿岸から200海里水域の漁の制限 ○遠洋漁業の減少 ○漁業で働く人の減少 ○輸入の魚が増えた ○魚より肉を好む食生活 日本の漁業では、年々、魚の生産量が減っている。
	29	○日本船による魚の生産の減少 ○養しよく漁 ○さいばい漁業 ○作り育てる漁業 ○とる漁業 ○稚魚 作り育てる漁業でも力を入れている。
	30 31	○かんぱち ○ぶり ○養しよく ○いけす ○計画的に生産 ○漁業協同組合 ○えさは、あじやいわし ○ペレット状のえさ ○多く育てすぎると値段が下がる ○量の調整 計画的に生産できる養しよくの仕事は、収入が安定している。

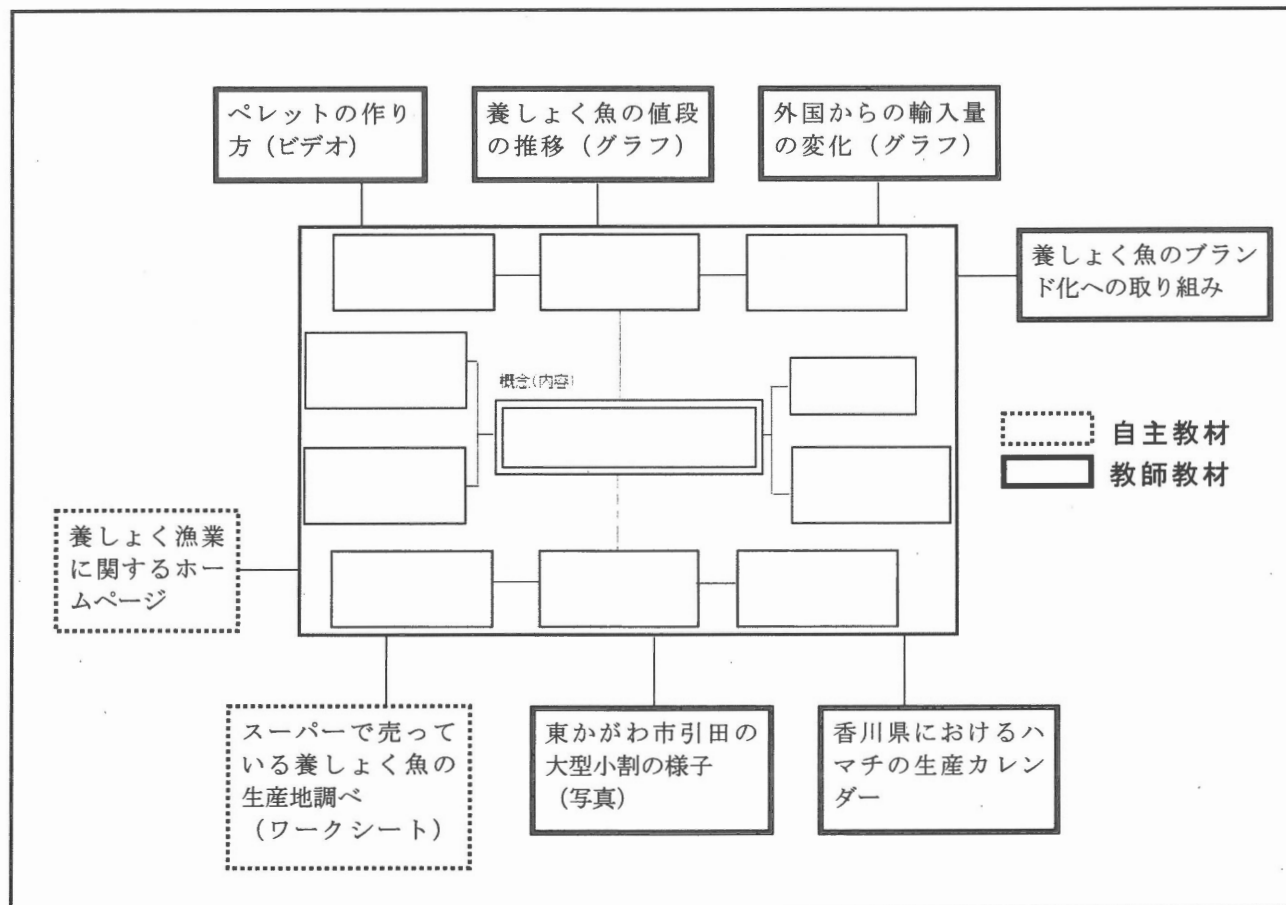
〈教材の構造〉

(B) 共通教材(教科書・補助教材)1時間分(教科書見開き2ページを中心に)

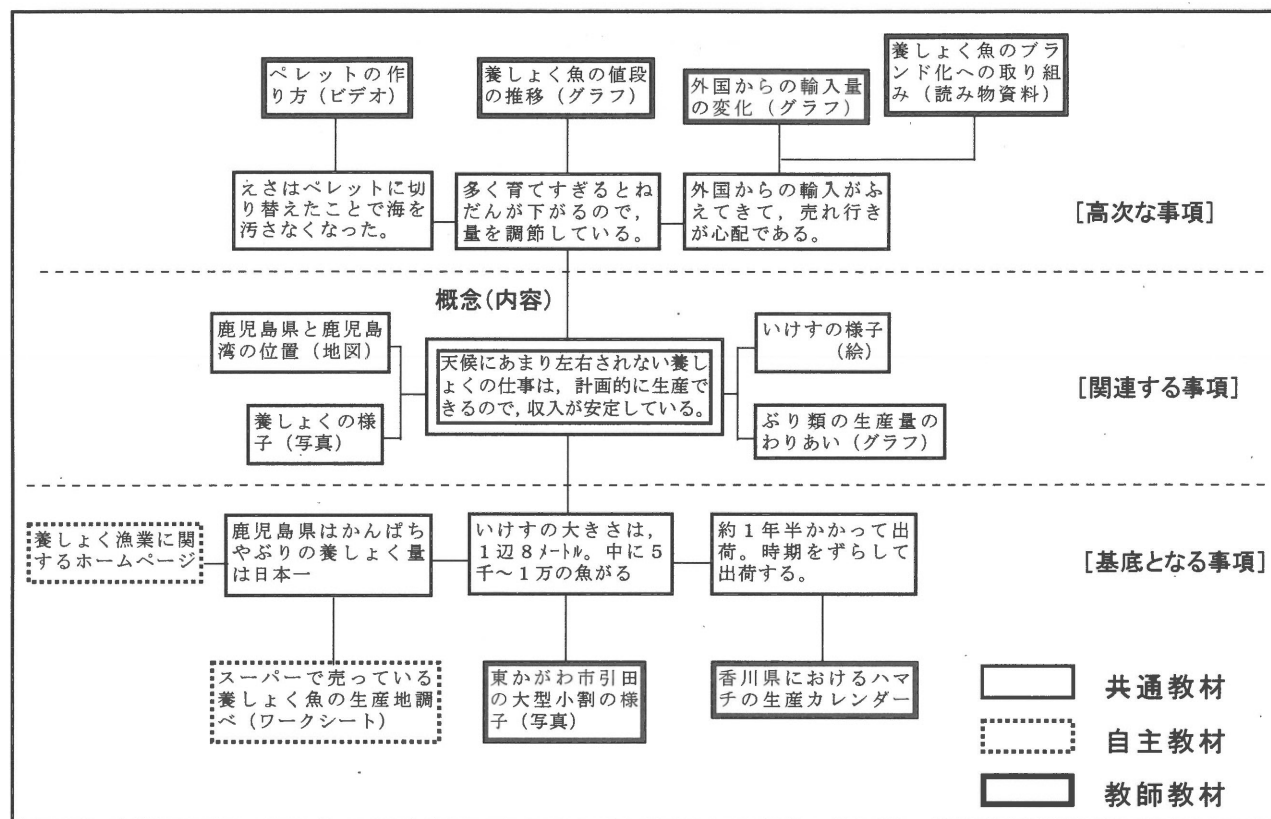
〈基本型〉



(C)「自主教材」「教師教材」(資料を教材化したもの)



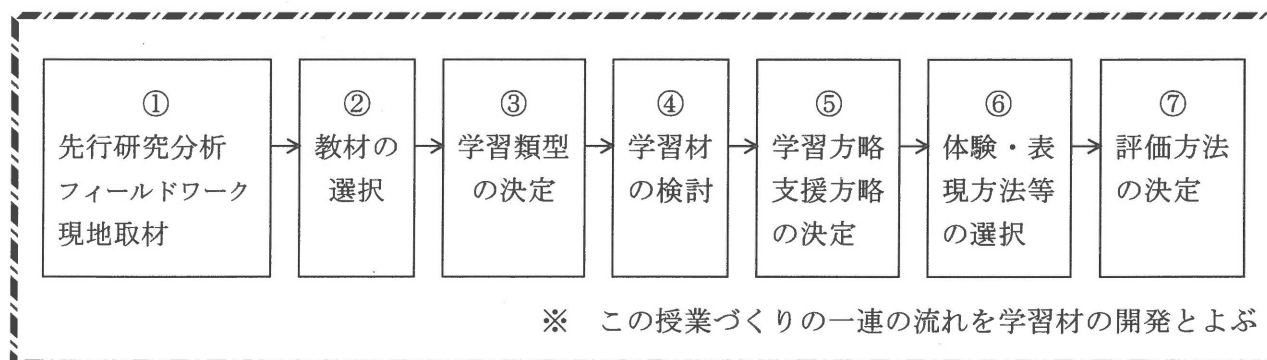
(D) 「教材の構造」完成図



③ 教材を学習材として「思考の構造」を明らかにする

学習材の開発は、単に子どもが意欲をもって学習に取り組める、あるいは操作活動により授業が活性化するというだけをねらっているのではない。研究テーマにあるように、思考力の育成こそが、一番のねらいである。そのためには、単に学習材を用意するというのではなく、学習材に合わせて、学習類型を選択したり、体験や表現方法を選択するといった一連の流れが重要になってくる。このような一連の流れをまとめて「学習材の開発」と呼びたい。

《学習材の開発の流れ》



また、今回、学習材の開発により、より深まった思考力の育成が期待できる。思考力は、既存の知識の上に、新しく学んだことを取り入れて、比較・関連づけ・総合しながら再構成を行い、新しい知をつくり上げていく過程で育まれる。教師は、子どもがどのような思考の過程を経て、新しい概念を再構成していくのか見通しておくことが必要である。それができていなければ、適切な支援を行うことは難しい。そこで、今年度は、学習材の開発に合わせて、「思考の構造」(子どもが思考する道筋)を明らかにすることを研究していきたい。その中心として、「思考図」(シンキングマップ)の活用を置き、研究したことが日常の授業場面で具体的に活用できるようにしていきたい。思考図(シンキングマップ)とは、考えを図式化することによって、発想の個別化と個性化を目的にしたもので、アメ

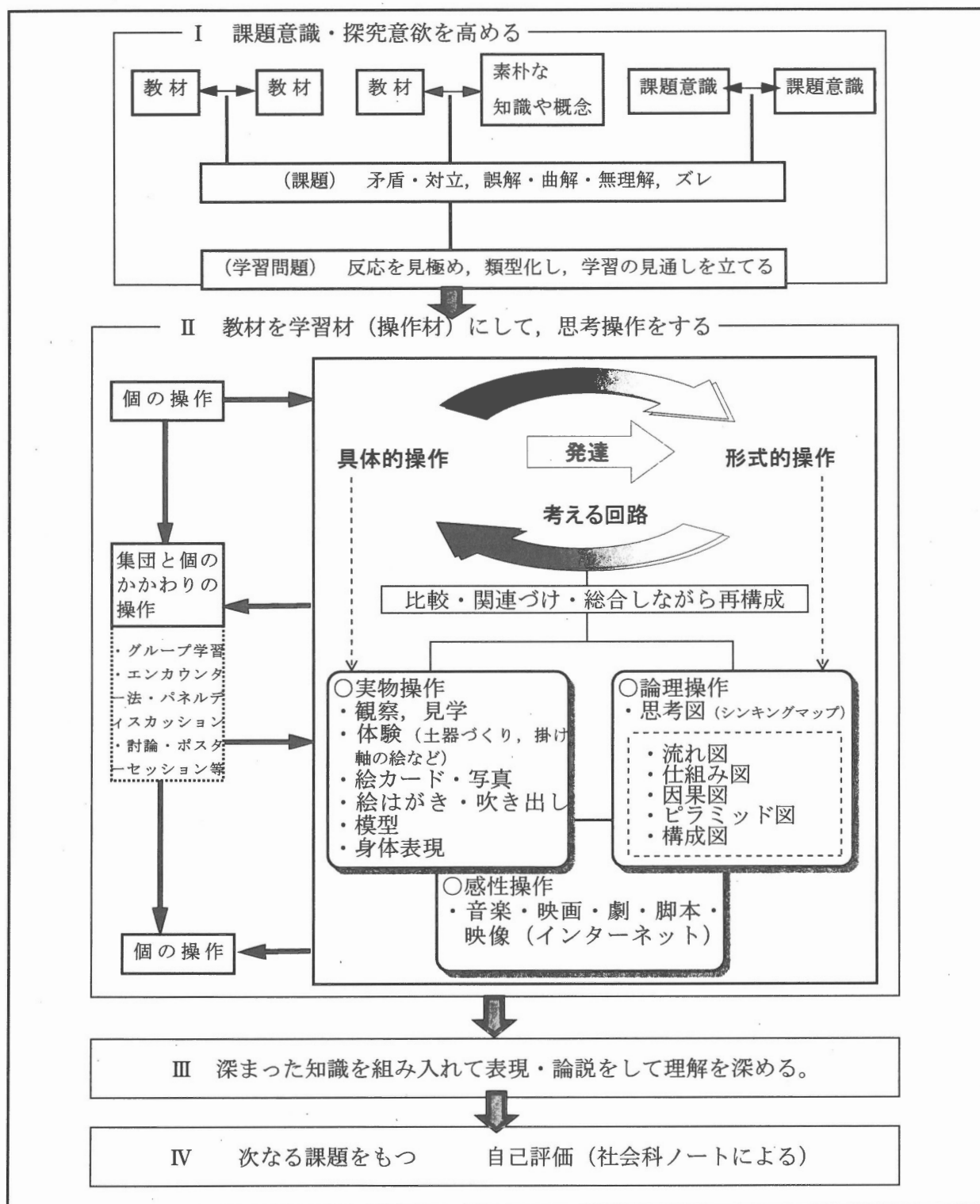
リカのハイルー氏やイギリスのベン氏などによって発表されたものである。その内容は、次のようなものである。その具体例については、次のページで紹介する。

- ① ○ (円) で考える
③ □ (四角) で考える

- ② - (線) で考える
④ 重ねる・立体で考える

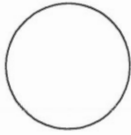
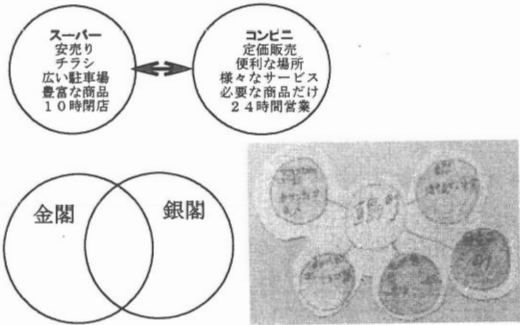
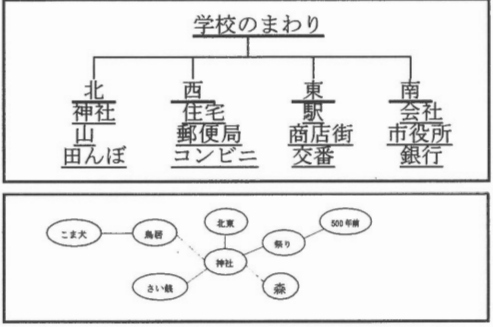
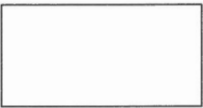
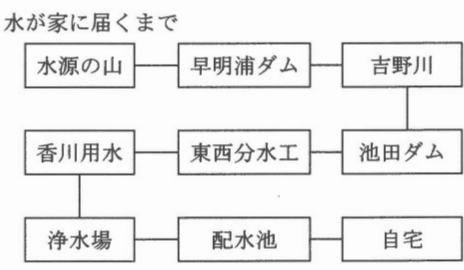
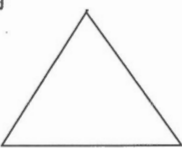
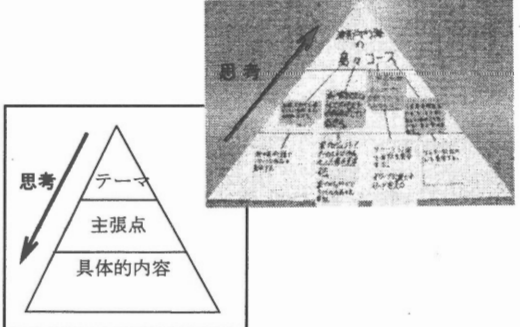
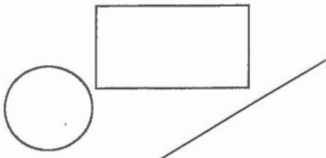
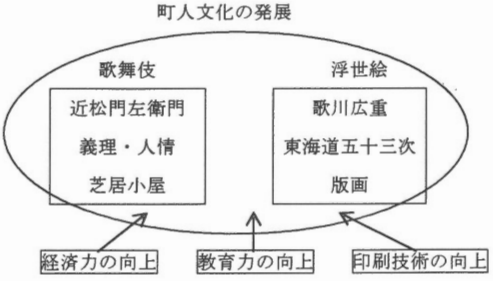
では、まず子どもがどのような思考の過程を経て、新しい概念を再構成していくのかその思考の過程について見ていきたい。

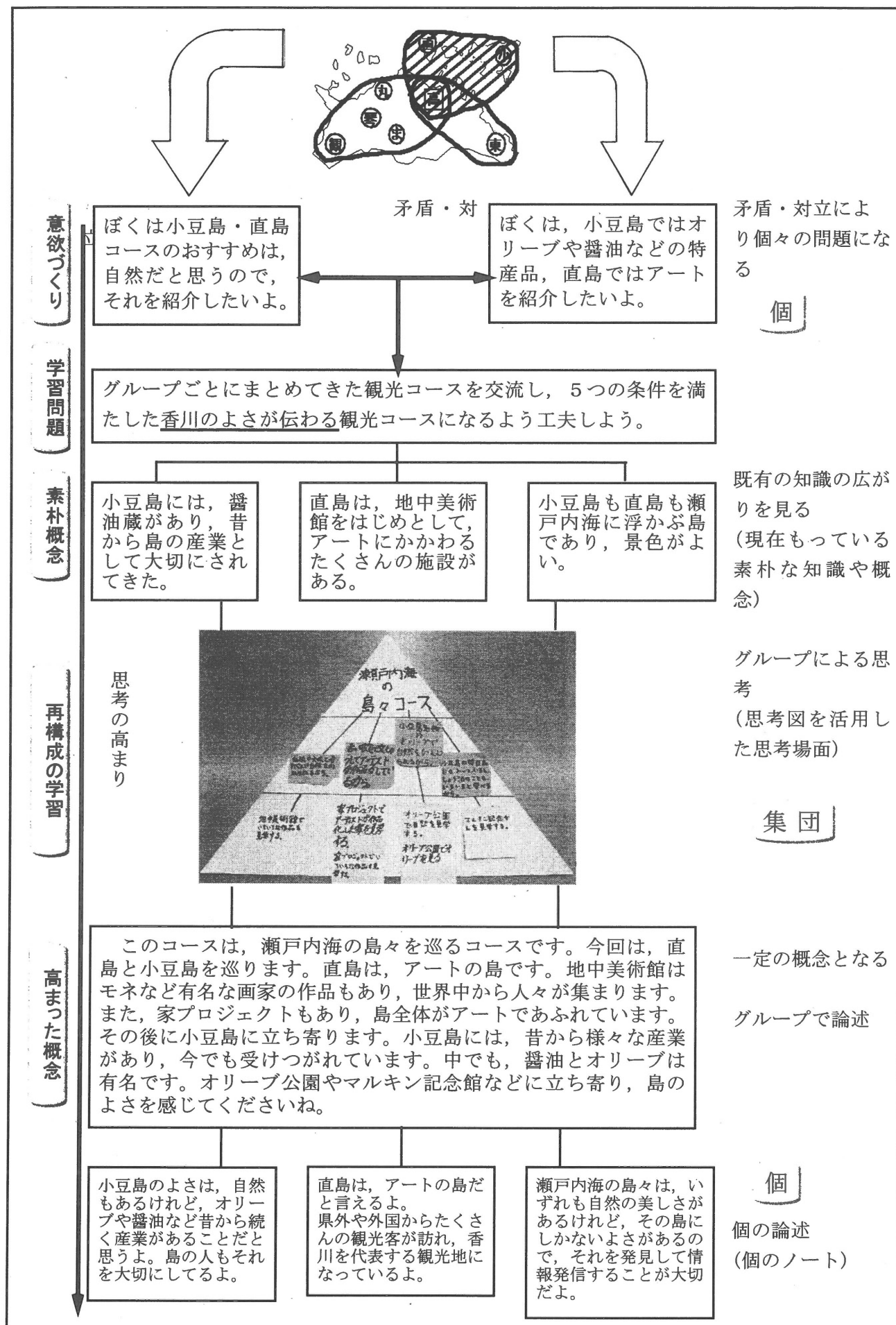
〈子どもの思考の過程〉



次に、思考図(シンキングマップ)の具体例を示す。

〈思考図(シンキングマップ)の5つの型〉

	名称	思考の様相	例
①	リークルマップ 丸 	分析する 比較する 仲間分けをする 自分の考えをふくらませる	
②	ツリーマップ 線 	考えを整理する 自分の考えをふくらませる 発想を広げる	
③	フローマップ 四角 	順序性を明らかにする 原因と結果をつなぐ	
④	ピラミッドマップ 三角 	自分の考えを積み上げていく 考えを概念化する 主張点を具体で述べる	
⑤	コンストラクションマップ 丸, 四角, 線等の 構成・組み合わせ 	いくつかの考えを 構造化し, 整理する	



(3) 研究の視点② 個に応じた学習と集団と個のかかわり

～個に応じた学習を進めるよう「集団の中での個のかかわり」を明らかにする～

① 「集団と個のかかわり」とは

「集団と個のかかわり」は、集団の中での個のかかわりを意味する。従来、「個」と「集団」については、まず、個を育て、「集団」づくりをするという考えに立っていた。しかし、そうではなく、社会性の発達の研究から「集団」の中で「個」を育てるように進められ、「協働性」を育てることとして、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領に示されている。このことから、低学年は主に「対話」を、中学年以降から小集団、大集団でと、広まり、深まっていく。しかし、学習論には必ず、「個」→「集団」→「個」の過程を大切にしたいものである。

そこで、「集団と個のかかわり」の意味を述べておく。集団の中での個のかかわりの姿としての仲間グループは、学校での学びの中で自然に形成されたり、教師の意図性によってつくられたりする。その集団で個と個が納豆の糸のように「引き合い」「粘り合い」ながら、集団をつくり上げていくのである。

そこで、この集団の中で個と個が引き合う意味を考えてみたい。これには、2つの様相がある。

1つは、集団の中での個のかかわりが「個性」を育てることになることである。すなわち、個性を生かし、伸ばすことを、子のよさを伸ばすと考えたい。その様相には、次の3つの面がある。

◎知的な能力としての「知力」

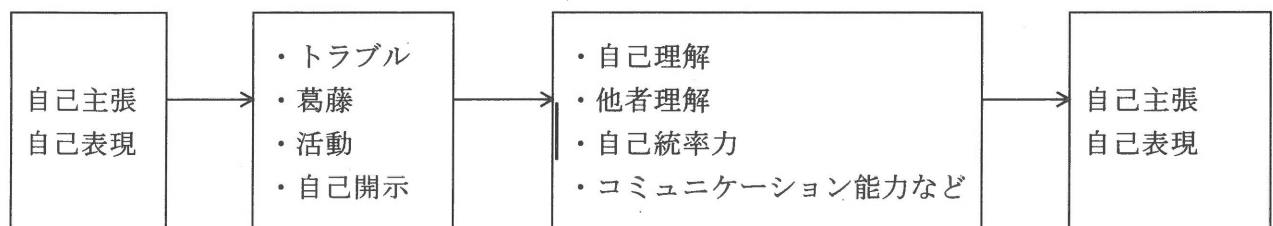
◎感じる力、活動する力、技としての力などの「表現力」

◎人柄とか性格としての「人間力」

このことから、集団と個のかかわりについてみる観点は、知力・表現力・人間力という観点であり、学習に際しての支援・援助の観点になったり、学習記録の観点になったりする。

2つには、集団の中での個のかかわりが、「集団の中での生きる力」を育てることになることである。すなわち、「社会性」を育てることである。仲間との学び合い、互いの「引き合い」の中で、トラブルや葛藤が生じ、それを解決するには、相手の行動の意図や要求に気づくことや、自分の意図の中で一人一人が仲間意識を持ち、自分の役割の自覚や責任感、みんなの役に立つことの喜び、他人のことを考え、自分を制御することなど、相互に引き合いながら調整していく。その中で、自我の発達を伴いつつ、他者理解を深めたり、社会のルールを身につけたり、自己統制力やコミュニケーション能力を身につけたりしていく。この様相は、次のようにとらえることができる。

◎ 集団の中での個のかかわりをみる観点

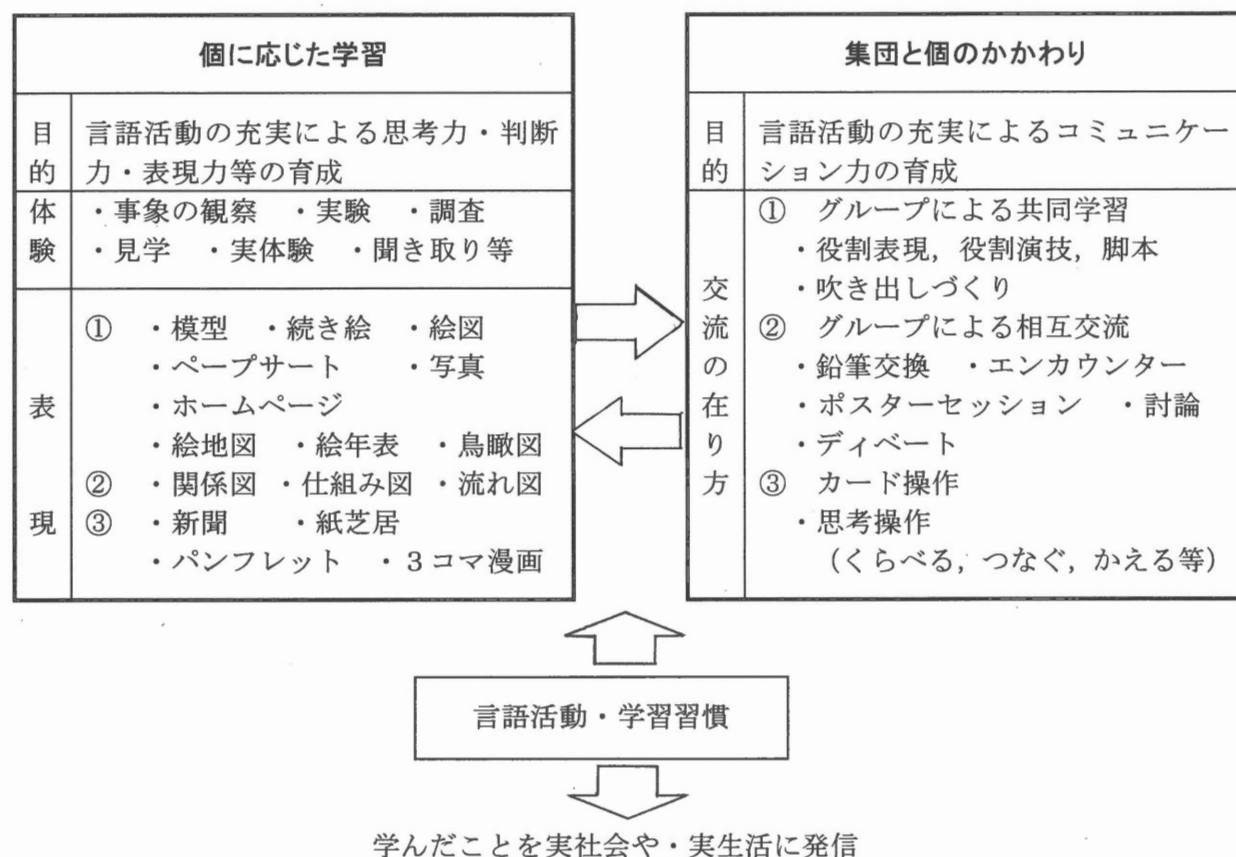


この「集団と個のかかわり」の活動は、相互交流として先の「思考の構造」で示したように、具体的には、グループ交流、エンカウンター交流、パネルディスカッション、討論、ポスターセッション等である。

② 「個に応じた学習」について

ところで、下図のように、「集団と個のかかわり」を大切にしたい個に応じた学習を進めることは、今求められている学習論の最大の課題なのである。それには、1つは、**A**個のもつ学習の個人差をどうみるかである。認知心理学では、「学習者が外界からの刺激や情報を取捨選択して取り入れ、それを分類し、変換して記憶したり、判断したりして自分の知識の体系の中に組み入れていく認知過程」を重視する。しかも、その操作の仕方には、個人差があることを認め、学習者それぞれの認知スタイ

ル、学習スタイルを考慮していくとしている。2つには[B]個に応じた学習を集団と個のかかわりを大切にして取り組む学習方略及び支援方略は、「学習の効果を高めることを目指して意図的に行う行動」であり、特に言語活動や学習習慣について研究を行うものである。



A 個人差のとりえ方

ア 認知スタイル

場独立型 ⇕	場全体の全体的な影響を受けないで、特定の対象を容易に認知するタイプ。仲間の考え方に影響されることが少なく、興味や好奇心に対する内発的な動機づけが強い。
場依存型	場全体の影響を受けて、特定の対象を分離して認知するタイプ。他人の存在や考え方に左右されたり、外発的な動機づけが強い。
熟慮型 ⇕	課題が不確かなとき、思慮深く、慎重に反応するタイプ。問題解決において無駄の少ない解決行動で、よりよい方策を探す。
衝動型	衝動的に思いつきで反応するので、拡散思考に向くが、非能率的な問題解決を示す。

イ 学習スタイル

学習は、学習者の積極的な役割を認め、知的操作を強調し、しかもその操作のしかたに個人差があることを認める。学習スタイルは、知覚・記憶・思考などの認知活動の様式に対する好みから、どんな場面で、どんな学習活動に訴えて学習するのを好むかといった、学習環境、学習活動のスタイルをいう。学習スタイルは、認知スタイル、学習方略を含めてとらえることができる。学習の個別化が強調され、重視されていることから、学習スタイルも個人差の一つとして考えることができる。

B 学習を効果的に行う方略

	学習材の開発による	
個に応じた学習	〈学習方略〉 言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成	① 事象への働きかけ ○ 観察・体験・調査・調べ ② 学習類型と学習材 ○ 教材反応習得学習 ○ 反応類型活用学習 ○ 課題選択探究学習 ③ 表現と学習材 ～情報発信のために～
集団と個のかかわり	〈支援方略〉 言語活動の充実を図るコミュニケーション力の育成	① 学び方の系統と多様性と発達段階 ② 学習スタイルと相互交流 ③ 達成目標 「ラーニング目標」とパフォーマンス課題、ループリック

③ 「個に応じた学習」を支える言語活動と学習習慣

A 言語活動の充実

⑦ 言語活動とは

○ 言語活動の充実の在り方

研究テーマにある思考力の育成を考えていく際に、言語活動の充実ということは避けて通れない。なぜなら、今回の指導要領の改訂においては、活用する力(思考力・判断力・表現力等)を育成するために欠かせないものとして、言語活動の充実が図られた経緯があるからである。「個に応じた学習」と「集団と個のかかわり」という学習論に入る前に、まず、社会科として言語活動の充実をどうとらえたらよいのかということを明らかにしておきたい。

○ 言語活動にかかわる問題点

最近の実践において、言語活動の充実が一人歩き(自己目的化)して、文字どおり言語活動を取り入れることに懸命で、思考力・判断力・表現力等を育むという本来の意図が必ずしも生かされていないことが問題ではないだろうか。思考力・判断力・表現力等は、「付きたい力」でありながら、「付いていない力」になりがちである。

○ 言語の役割は何か

各学校で子どもたちの思考力・判断力・表現力等をはぐくむためには、レポートの作成、論述といった知識・技能を活用する学習活動を教科で行い、言語の能力を高める必要がある。言語の能力は、(中略)子どもたちが他者や社会とかかわる上でも必要な力である。

(中教審答申より抜粋)

〈言語の役割〉



○ 子どもたちの思考力・判断力・表現力(=知的活動(論理や思考)の基盤))

○ 子どもたちが他者や社会とかかわる上で必要な力

(=コミュニケーションや感性、情緒の基盤)

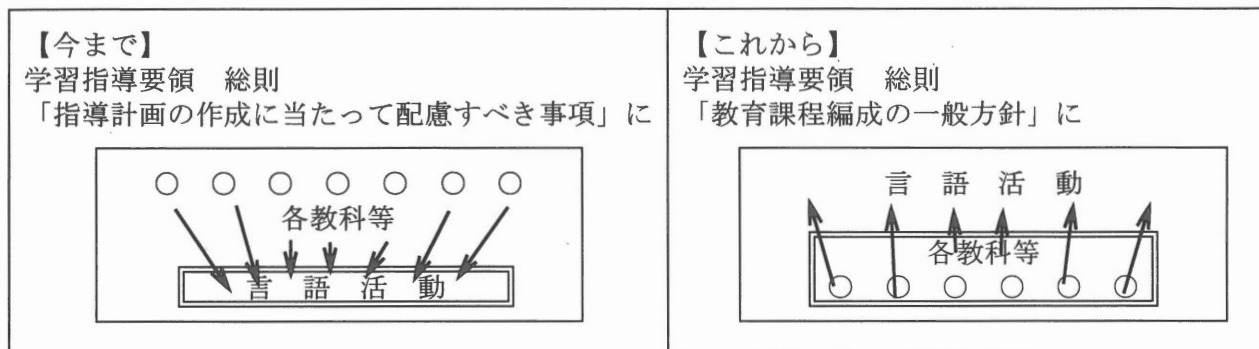
○ 非言語コミュニケーションの重要性

人間はコミュニケーションを行う時、言葉を使い互いの感情や意思を伝えあってもいるが、「目は口ほどにものをいう」といった諺にも示されているように、言葉よりも、顔の表情、視線、身振りな

どが、より重要な役割をになっていることがある。日常的に人間は複数の非言語的の手がかりを使いメッセージを伝達しあっている。子どもたちが集団の中で他者とのかかわる際に、言語によるコミュニケーションと合わせて、非言語によるコミュニケーションも重視していかなければ、真の交流にはならない。

① 学習指導要領における言語活動のとらえ方

○ 今までとこれから



○ 教育活動全体でとらえる言語活動であるために
言語活動とは

「教科等で学んだ基礎・基本の事項や内容を、実生活や実社会の事象とのかかわりの中で、自分の思いや考えを目的をもった流れとして、論じ、語っていく活動」としてとらえる。

㊦ 「国語科における言語活動の充実」と「他教科における言語活動の充実」のちがいは何か

○ 国語科における言語活動の充実

- ・ 目的・手段の二重性
- ・ 言語能力の育成それ自体が目的

- ・ 的確に理解し、論理的に思考し表現する能力
- ・ 互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力
- ・ 感性や情緒

- ・ 思考力・判断力・表現力等を育成する手段

○ 各教科等における言語活動の充実

- ・ 各教科等における言語活動は、教科のねらいを効果的に達成するその手段であるとともに思考力・判断力・表現力等を育成する手段



言語活動の充実が（とりわけ国語科以外の教科では）それ自体を目的とするのではなく、「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ」ために取り入れられている。つまり、言語活動の充実は、「思考力・判断力・表現力等の育成」の効果的な方法・手段として位置付けられる。

㊦ 社会科においてどう言語活動の充実を図ればよいのか

○ 各学年の目標の改訂

「調べたことを表現する」→「調べたことや考えたことを表現する」

○ 言語活動の充実にかかわって重視したいこと

各学校においては、地域の実態を生かし、①児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、②観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の一層の充実を図ること。

（指導要領解説 社会科「指導計画の作成と内容の取り扱い」より抜粋 番号下線は大嶋）

①については、地域にある素材を教材化すること、地域に学習活動の場を設けること、地域の人材を積極的に活用することなどに配慮した指導計画を作成し、児童が興味・関心をもって楽しく学習に取り組めるようにすることが重要である。児童が実物や本物を直接見たり触れたりすることを通して社会的事象を適切に把握し、具体的、実感的にとらえることができるようにすることが大切になってくる。このことが、社会科における言語活動の基盤となる。

②については、調査・見学、体験などによって分かったことや考えたことなどを適切に表現する活動を効果的に位置付け、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする必要がある。調べたことや考えたことを表現することを通して、思考力の育成が図られる。ここに言語活動充実の意味がある。

○ 学習の進め方における具体的工夫

- ・ 問題解決的な学習の充実
- ・ 観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手して的確に記録する
- ・ 入手した情報を比較・関連付け、総合しながら再構成する
- ・ 考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく

イ 学習習慣の確立

〈学習習慣〉

「自主教材」は、子どもたちが自主的に収集した参考図・インターネットなどの資料を教材化したものであるが、子どもたちが資料を収集するのは、主に学校図書であったり、家庭であったりする。そこでは、どうしても子どもによって、調べる資料の収集する意欲をもった学習習慣が大切になってくる。学習習慣を育てるとは、次のような要件が考えられる。

- ①授業がよく分かることが学習習慣の基盤となる。
- ②自分にもできるという成就感が学びの習慣づけになる。
- ③家庭学習が、授業とかかわりが深いほど学習習慣が育てられる。
- ④家庭学習の方法（学習ガイド等）が発達段階と応じて工夫されている必要がある。
- ⑤家庭学習は、学習習慣として、教師、家庭の励まし、認められることが効率を高める。

そして、子どもたちが仲良く協力的な関係の中で、安心・安定感のある学級・学校であることが大切である。そんな中で、学習習慣（学習ルール）は学校全体で発達を踏まえながら大きな枠組みがあり、その枠組みの中で、学級の特色を出すという調和が必要である。学習の準備、話の聞き方、発言の仕方、ノート書き方、いろいろな活動の仕方など多様な場面で、学校のルールの中で学校として教師と子どもが創り上げていくものである。

とにかく、教師は、「子どもが話し合いを楽しんでいるか」「子どもの思考をたくさん引き出しているか」「子どもの声をしっかり聞いているかを常に見て評価することが望まれる。」

Ⅳ 研究主題を探究する具体策

1 学習観を明らかにすること

(1) 求める学習観

学習とは、「子どもを白紙の状態」としてとらえるのではなく、子どもが現在持っている「素朴な知識や概念」を組み替えたり、既有知識を強化する活動として捉える。そこでは、教師は、子どもが現在持っている「素朴な知識や概念」を捉えるために、子どもの反応を類型化して捉えることが大切になる。また、子ども自身が、①意欲をもって課題や問題に向かって積極的に学習に参加し、②じっくり観察・分析・批判し、③それを土台に創造的な発想を生かし、④深まった知識を組み入れて表現・論説して理解を深め、その過程で自分自身をモニタリングする評価を加え、⑤課題や問題を解決していく学習観、すなわち「再構成する学習観」に立つのである。

そこで、この学習観を支える「学習の要訣」を次に述べる。

(2)「学習の要訣」

子ども主義の学習観に立つ「学習の要訣」を、4つ挙げておく。

① 子ども中心

教師は、「何を教えるか」より「いかに教えるか」に立つ。教材を指導する「指導観」中心から、子どもの学ぶ意欲を常に中核におく進行役、介助役の役目をもつことから、学習材の開発を重視する。

② 批判的思考

批判的思考とは、注意深く、より正確な論理的思考である。何が問題なのかを見極めたり、データを集めて問題と照らし合わせたり、比較、関連させたりする論理的な方法により、問題に対する批判、考え方を展開し、「理論的な裏づけ」をする思考である。単なる懐疑的な批判ではなく、理論的な批判である。

③ 創造的思考

創造的思考とは、自主的で個性的なさまざまな視点から考えて、論理的、批判的な思考を交えながら既存の定義にとらわれない思考である。

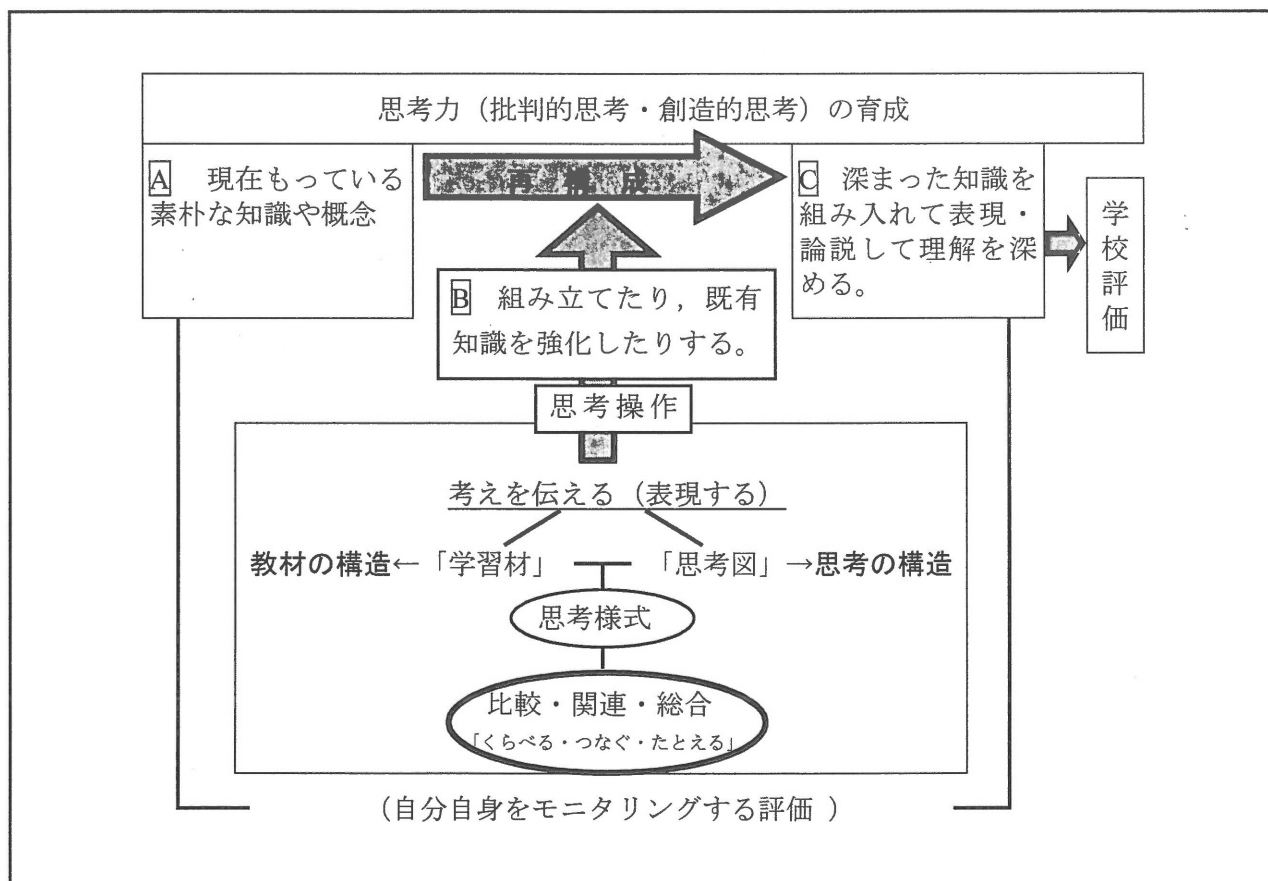
④ 課題や問題解決と評価

課題や問題解決に向けて学習評価を行いつつ、探究的に取り組む能力や態度を育て、学校評価につなぐ。

2 考える力を育てる学習に取り組むために

(1) 考えを伝える(表現する)スタイルによる ～批判的思考と創造的思考を育てる「思考図」の開発～

考える力を育てる学習を組むには、先に述べた研究の視点①「学習材の開発」と研究の視点②「個に応じた学習と集団と個のかかわり」を踏まえた研究を行う。思考力と表現力の育成については、新学習指導要領に活動例として「比較・関連・総合」(くらべる・つなぐ・たとえる)などを表示している。これは、思考様式を例示したものであり、思考の様式を示すに過ぎない。



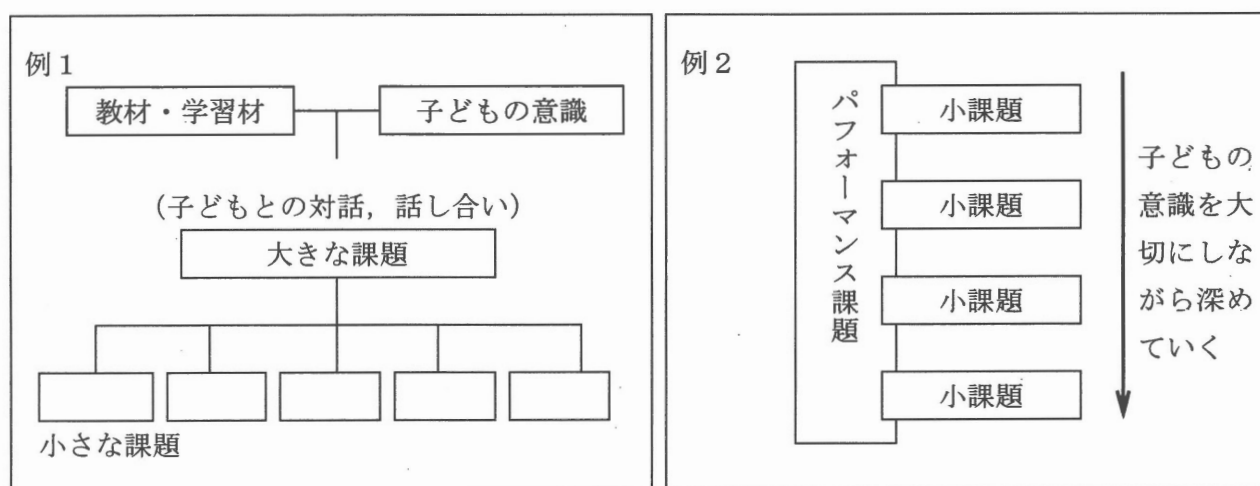
思考力は、図のように、**A**「現在もっている素朴な知識や概念」を、**B**「組み立てたり、既存知識を強化したり」して、**C**「深まった知識を組み入れて表現・論説して理解を深める」よう再構成することによって育てられる。すなわち、思考力は**A**から**C**に高めることによって育てられる。その高める過程の活動が、思考様式の活動であり、自分自身をモニタリングによる評価をしながらの活動である。

この思考様式による活動は、考えることと伝える・表現することと合わせて「考えを伝える(表現する)」活動である。そのための「思考図」の開発が望まれることについては、先に述べたとおりである。

(2) 課題・学習問題関与意欲を高める

〈課題・学習問題関与意欲〉

考える力を育てるには、課題や学習問題を解決する問題解決的な探究の学習において、課題や学習問題に関与する力の意欲が強いことがポイントである。では、課題を学習問題に関与する意欲を高めるにはどんなことを工夫すればよいか、図で示してみる。



(3) 授業のタイプにより学習の性格を明らかにする

授業は、いつでも同じようなスタイルで行うのではなく、授業のタイプによって学習方法を変えていくことが大切である。下に、授業の3つのタイプを示す。

- ① 教材反応学習・・・基礎・基本の事項の徹底や学び方の確実な習得をねらいとする授業のタイプである。地図指導や資料の読み取り、事項や用語の把握を図り、きちんと分かることを徹底する授業である。教師は、子どもの教材への反応を見極め、「個別化」のための援助、指導を行う。
- ② 反応類型学習・・・大まかな授業の流れとしては、まず、どの子も共通に基礎・基本の事項をつかむ。そして、その事項をもとに、表現と思考を組み合わせながら基礎・基本の内容に高めていく。子ども自らが、自分たちの反応を類型化する過程で、教師は個々の反応を見極め、指導の「個別化」と、学習の「個性化」を求めていく。
- ③ 課題選択学習・・・子ども一人ひとりが、自らの興味・関心に基づいて課題を選択し学習を進める。そして、何を学ぶかという学習の対象となる教材の選択をする。と同時に、どのように学ぶかという学習の方法や進め方をも選択する。つまり、課題によって、教材と学習方法の選択が子どもに任されるのである。創意を生かした自他の学び方や考えのよさを認めながら、個性化を目指す授業の展開である。

(4) 内容による学習形態のちがい

内容	学習形態	特色	学習材開発のポイント
習得の内容	教材反応学習	一斉学習，個別指導 共通教材，共通表現 個別化，個人差に応じる学習	どの子にも基礎・基本の内容の確 実な定着をめざす個別的な学習材 の開発
活用の内容	反応類型 学習	子どもの反応を学習材に 共通な課題や異なる課題の交流 により一定の概念をつかむ	習得した内容や方法を活用し，活 用する力（思考力・判断力・表現 力等）を育成するための学習材の 開発
探究の内容	課題選択 学習	課題づくり，課題選択 課題ごとの探究・表現 多様な見方・考え方による概念 の交流により個性化を図る	選択した課題ごとに子ども自らが 個性を生かして探究していくこと のできる学習材の開発

3 社会科ノートにより思考の構造の視覚化を図る

(1) 相互交流の視覚化を図る社会科ノート ～思考の構造の視覚化を図る～

① 相手に分かりやすく，自分の考えを表現する

相互交流に入る前に，まず自分の考えを相手にとって見やすいよう表現することが大切である。それには，2の表現の仕方で示した関係図，仕組み図，流れ図，新聞などの表現物をしっかりしたものにすることや思考操作（くらべる，つなぐ，かえるなど）のあとをノートなどに残しておくことが大切である。相互交流には，まず，このことが前提になる。

② 相互交流の視覚化を図る

相互交流は，音声言語で行われることが多いため交流後，どのような話し合いが行われたのか，交流によってどのようにお互いの考えを深められたのかが見えにくいのが現状である。そこで，音声言語での話し合いを文字化や図示化しながら，支援する方法について考えていきたい。

③ 視覚情報化のポイント

ア 話し合いの手順を共有する

話し合いの方法が毎回異なるようでは，子どもたちも戸惑うことが多く，話し合いも深まりにくい。そこで，いくつかの話し合いの方法をパターン化しておき，その手順について，教師と子どもが共有しておくことが大切である。そのことによって，子どもたちは，話し合いにスムーズに入れるようになる。その共有の仕方であるが，クラスのあるグループをモデルとして，モデルの討議の進展に合わせて，教師がその構造をリアルタイムで板書し，視覚情報化することで話し合いの手順・ポイントを理解する方法がある。

イ 相互交流のあとを残す

例 グループによる話し合いの記録づくり

- ・ グループで1枚の記録づくり → 記録をもとにして他グループと交流 等

4 社会科ノートを評価につなぐ

(1) 「見える学力」「見えにくい学力」の評価

現在，学力は，知識や技能にとどまらず学習意欲，思考力，判断力，表現力等を含むものというところをえ方をし，その育成を重視した授業づくりが重視されている。

そのためには，次のような視点からの授業改善を行っていきたい。

- 通知表や指導要録の評定のためにだけあるのではなく，授業の中での形成的評価として機能させる。
- 評価は知識・技能といった見える学力だけでなく，思考力等見えにくい学力も評価対象にできるような評価方法を開発する。

①「見える学力」の評価

「内容知」における「見える学力」とは、主に都道府県名、主な山地、河川等の名称、歴史的事象等の社会的事象についての知識・理解といった学んだ結果身に付いた知識であり、これはペーパーテスト等で測りやすい。このような基礎・基本の事項の理解の上に立つてこそ、その教科ならではの思考が可能になることは明白である。

②「育てたい力(見えにくい学力)」の評価

その一方「育てたい力」としては、その子ならではの「基礎・基本の内容」が挙げられる。これは、その子の学習過程での発言や表現物から、その子の思考の流れを読み取り確実に「定着」しているかどうかを見取るわけであるから、テスト等では簡単には測れないものであろう。

また「方法知（学習力）」については、まさに「育てたい力」である。

学習力には、論述力、討論力、論理的思考力、問題を追究したり解決したりする力などがあるが、それ自体、数値化が難しい。これらの力は、ポートフォリオやグループエンカウンター、ポスターセッション等を体験していく過程で、しかも教師の適切な指導のもとに身に付いていく力でもある。

現在主としてなされている学習指導は、主として見える学力を数値化して、どの程度到達できたかを見取り、少人数指導等の指導法の工夫・改善により、知識や技能の習熟度によって評価する傾向が強く打ち出されているものである。しかし、それは一面的な取り組みでもある。

社会科授業では、自ら主体的に調べ、調べたことを効果的に表現し、表現と思考の連続によって社会的事象の本質について考え、深めていく力を育てていくことを大切にしたい。そのためにも、「見えにくい学力」の評価の工夫をより一層重視したいと考えたのである。

評価は、通知表や指導要録の評定のためにだけあるのではなく、授業の中での形成的評価として機能させる。そして、評価は知識・技能といった測りやすい学力だけでなく、思考力等測りにくい学力も評価対象にできるような評価方法を開発していくこととする。

	測りやすい力	測りにくい力
知 識 (内容知)	漢字・計算等 基礎・基本の事項(社会用語)	基礎・基本の内容 表現
学 習 力 (方法知)		ポートフォリオ グループ・エンカウンター ポスターセッション ディベート 等

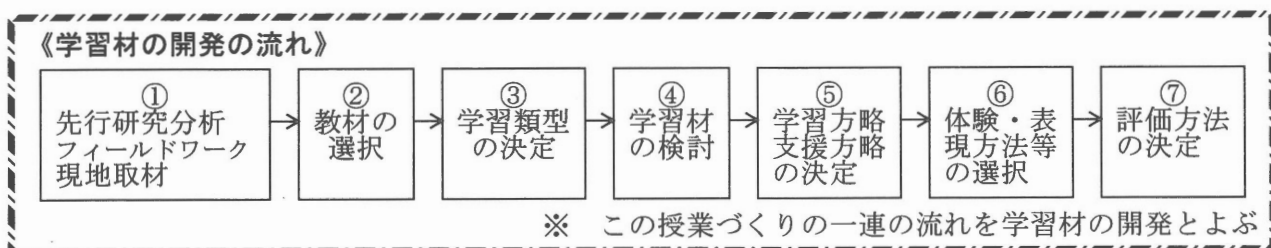
そこで、子どもの行動や作品に着目して評価するものとして、パフォーマンス評価がある。ただ、その行動や作品等を評価する基準が明示されない限り、評価としての客観性や信頼性を得ることはできない。そこで、この課題を克服するものとしてルーブリック（評価指標）づくりを考えている。

ルーブリックとは、学習課題に対する子どもたちの認識の質的な転換点に基準を合わせて評価の指標を段階的に設定する試みである。ルーブリックの研究実践を積んでいくことにより、より精度の高いルーブリックが作成され、到達目標の明確化による確かな学力の形成がなされるのではないかと考え、今後ルーブリックの開発を行っていきたいと考える。

V 「考える力を育てる」学習の具体的実践事例

実践の具体例 「4年 わたしたちの県」の実践をもとにして

ここからの実践は、先にも述べた以下の「学習材の開発」の流れに沿ったものである。



(1) 先行研究分析・フィールドワーク・現地取材

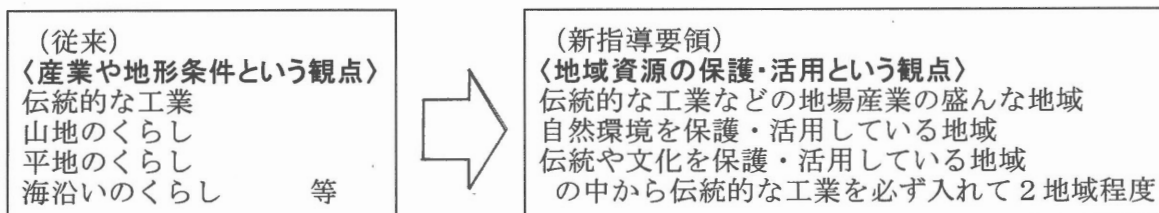
① これまでとの大きな変更点

新 設

- 我が国における自分たちの県（都、道、府）の地理的位置や47都道府県の名称と位置をおさえ、子どもたちに身に付けさせること。

変 更

- これまで産業や地形条件から見て県内の特色ある地域の人々の生活が教材選定のポイントであったが、地形条件の内容が5年生に移行したため、4年生においては、地域資源の保護・活用という視点から教材を選定することとなった。



② この単元では、何を学ぶのかということをはっきりさせる

「県のように」の学習で学ぶべきは何であろうか。この学習のねらいの一つには、地域の活性化やよりよい地域づくりに協働して取り組む人々の生き方に触れ、社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことがある。中央教育審議会の答申の改善の基本方針の中でも、「公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視していく」と述べられている。自分の生活舞台である地域で社会参画の基礎を学ぶという視点が重要である。二つ目として、自分の住む県の特色が表れている事例であることが重要である。県を代表するような典型的な事例について学ぶことによって、県の特色を少ない事例からでも浮き彫りにすることができると考えている。以上の2つの面から事例を調べ、自分たちの住んでいる県の特色を考え、誇りと愛情を育てていくことが大切である。

今回、地域資源の保護・活用ということがクローズアップされ、移行措置を踏まえて各校でも実践されていることと思うが、この地域資源の保護・活用の内容は、まだ、副読本等でも作成されておらず、各校での教材研究によるところが大きいと思われるが、これまで述べてきた2つの点を重視しながら、事例地の洗い出しを行うことが大切であると考えている。

事例地を選定する際に考えたいことは次の2点である。

- 「地域社会の形成に参画する人々の知恵や汗が見えてくる」事例かどうか
- 「県の特色を語るのにふさわしい」事例かどうか

以上の視点を踏まえて、県内において、事例地として取り上げることが可能と思われる地域を挙げてみたい。県の学習では、自分たちの住んでいる地域以外の地域について学んでいくため、高松市以外の地域の中から事例地の候補を挙げてみたい。

(2) 教材の選択

① 県内で取り上げることが可能だと思われる事例地(高松市以外)

- ① 伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域
 - ・ ア 丸亀市のうちわづくり
- ② 自然環境などの地域の資源を保護・活用している地域

(渓谷や森林、高原や湿原、河川や海辺などの豊かな自然)

 - ・ イ さぬき市大串半島周辺
 - ・ ウ まんのう町(満濃池を生かした公園)
- ③ 伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域

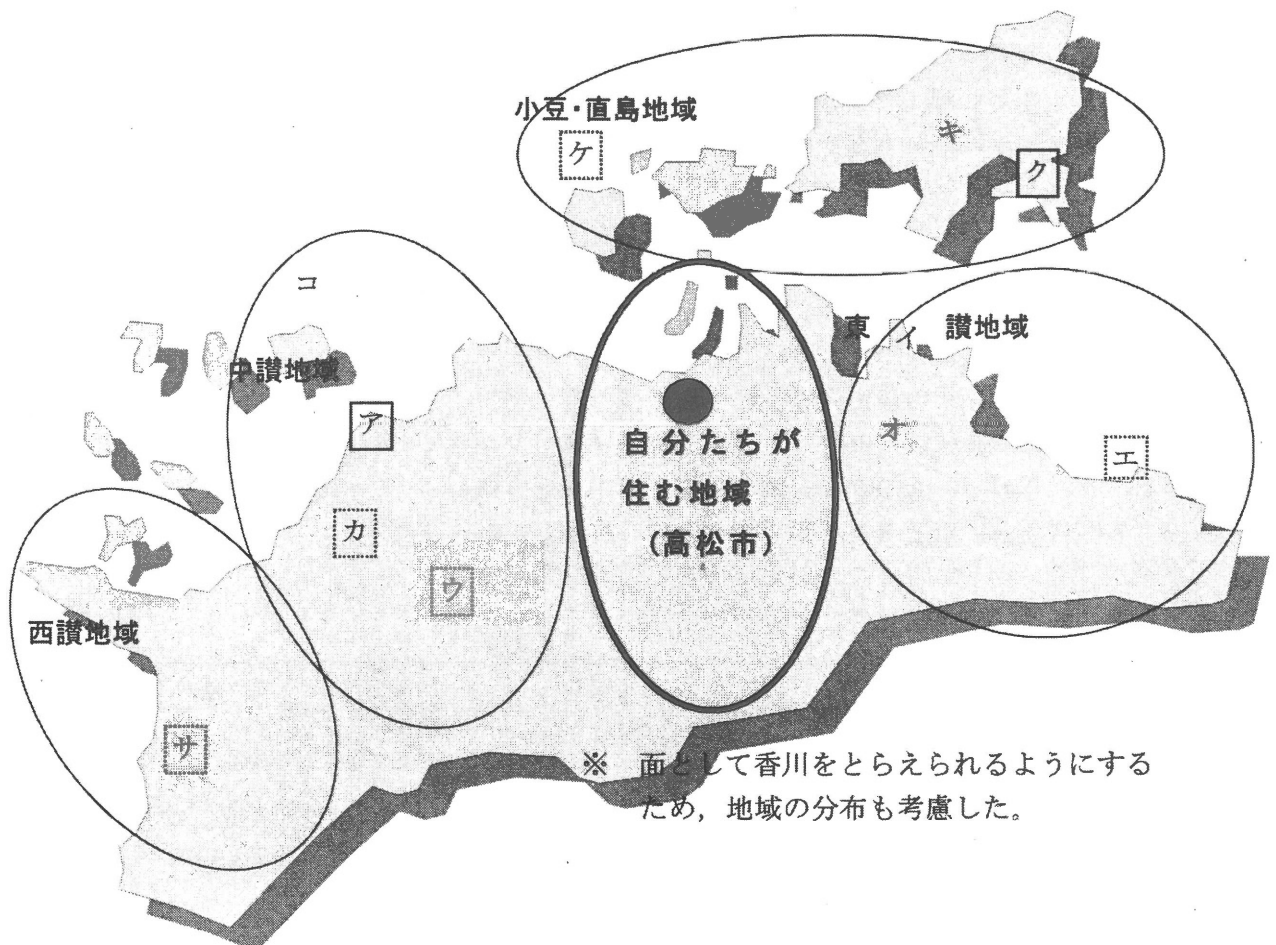
(歴史的な景観、文化財や年中行事、その土地の特性を生かした産物など)

 - ・ エ 引田(歴史的町並み保存地区と和三盆糖づくり)
 - ・ オ さぬき市(四国八十八カ所の遍路道を生かしたまちづくり)
 - ・ カ 琴平(金丸座を復興し、それをもとにしたまちづくり)
 - ・ キ 小豆島のオリーブ栽培(オリーブを生かした特産品づくり)
 - ・ ク 小豆島町苗羽地区(醬の里での醤油づくりと、町並み保存)
 - ・ ケ 直島(アートの町を支える地域の力)
 - ・ コ 本島(塩飽勤番所と笠島歴史的町並み保存地区)
 - ・ サ 観音寺市豊浜(ちょうさ祭を受け継ぐ住民の力)

—— は、今回習得の学習として一斉に学習を行った事例。

⋯⋯ は、活用・探究の学習として課題別に調べを行った事例

【取り上げた地域の分布】



(3) 学習類型の決定

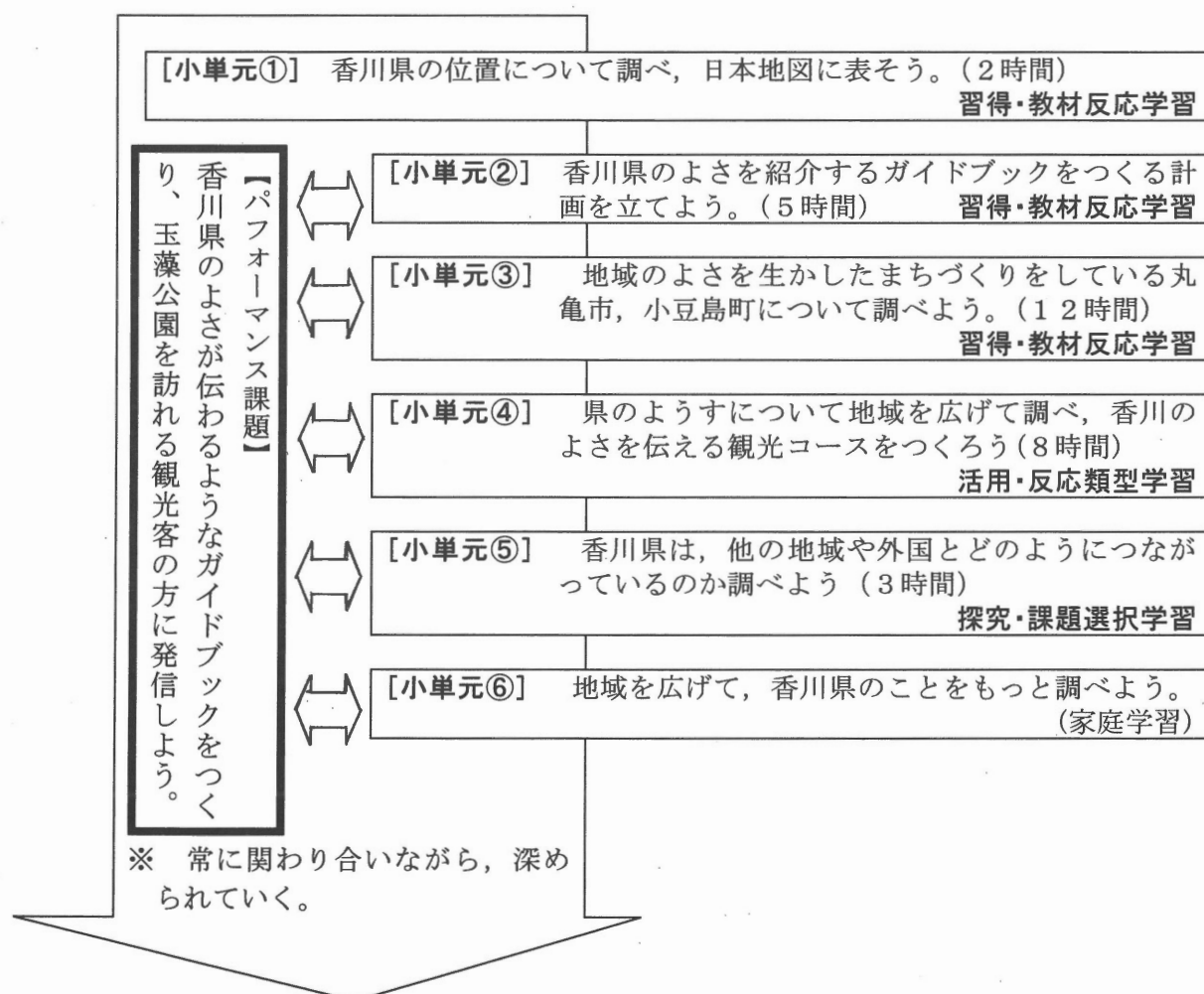
① 本単元のパフォーマンス課題

社会科の学習として、ただ香川県のパンフレットをつくろうといっても、それは子どもの意識には沿っていない。やらされている感が残る。子ども自らが、主体的に取り組むようになるためには、子どもが意欲をもてるようにすることが大切である。総合的な学習の時間で玉藻公園（高松城跡）を調べているが、調べの中で、年々観光客が減ってきており、現在では、最盛期の約3割程度の観光客しかいないことを知った。そこで、社会科で香川県のことについて学んでいるので、香川県のよさをパンフレットにまとめ、玉藻公園を訪れる観光客に発信することで、観光客を増やしていこうということとなった。そこで、本単元におけるパフォーマンス課題を次のように設定し取り組むこととした。

香川県を訪れる観光客が、昔に比べずいぶん減ってきている。県も観光客の増加に向けて、いろいろな取り組みを行っている。そこで、香川県のよさが伝わるようなガイドブックをつくり、楷の木活動で調べている玉藻公園を訪れる観光客の方に発信することで、自分たちにもぎわいのある香川の実現に協力していこう。

② 学習内容と学習形態

本単元は大まかにまとめると、下記のような構成になっている。パフォーマンス課題は、通常サイズの単元においては、そのみで課題として十分使えるものである。ただ、本単元は、全30時間という大単元であり、単元内に含まれる内容も多岐にわたることから、子どもにとって常に意識するには大きすぎる存在である。小単元は、それを子どもが学習として考えていくことのできるレベルにくだいたもの、あるいは子どもが学ぶめあてとして意識できるレベルにしたものである。



(4) 学習材の検討

県のようにすについて地域を広げて調べ、香川のよさを伝える観光コースをつくることをこの単元の大きな課題にしている。そこで、習得の学習で調べる内容や方法を学んだ後、子どもたちがその町のよさが伝わる壁新聞をつくる。そこには、香川のよさが伝わる内容が盛り込まれており、相互の交流によって、それぞれのまちのよさを知るのである。

ここでは、子どもたち自身がつくった右の写真のような壁新聞を学習材として、観光コースづくりに生かしていく。

(5) 学習方略・支援方略の決定、体験・表現方法等の選択

① 本時における「活用する力」

「活用する力」とは、思考力・判断力・表現力等の学力の要素のことを指す。本時では、その中でも思考力にポイントを置く。ねらいとしたのは、総合的な思考である。具体的に述べると、これまで自分たちで調べてきたそれぞれの地域のよさ(点)をつないで、香川のよさ(面)をつかむことである。子どもの様相としては、「自然や伝統・文化、産業や人の営み、交通といった5つの観点を生かして、香川のよさが伝わるような観光コースを考え、香川の特徴を紹介文にまとめることができる」ことを想定し。

つまり、本時では、これまで学んできたことを総動員して、香川のよさが伝わる観光コースをつくるというパフォーマンスが求められる。その中で思考力を働かすのである。活用は、「単元で獲得した知識・技能やこれまでの学習や生活経験の中で、既に獲得している知識・技能をつなぎ、知識の組織をつくっていく」という学習の流れである。知識はつないだりつなぎかえたりすることで、いろいろな事態に遭遇しても活用できるようになり、柔軟に使える知識・技能となっていく。この点は、指導要領でも重視されている知識の再構成である。今まで学んできたことを総動員しなければ解決できないような状況設定をすることで、本校の研究テーマにもあるように、子どもは、自らの学びを高め、伸びを実感することができると考えている。

(6) 表現する中で思考力・判断力・表現力等を育成する

① 前時までの思考操作の具体例

子どもたちは、前時まで5人が1組になって、自分たちが考える観光コースを考えてきた。この5人の組み合わせは、課題選択で5つの町を調べたが、それぞれの町を調べたものが1名ずつ集まって、1つのグループを構成している。

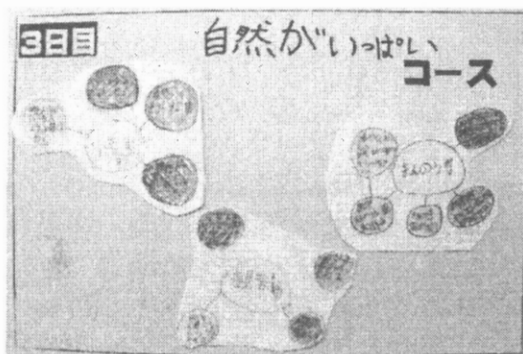
観光コースは、ただ、組み合わせればよいというのではなく、次の5つの条件を必ず満たすものとした。このことにより、どのように組み合わせればよいのかという思考が働く。

その組み合わせに活用したのが、右のようなバブルマップである。中央に、自分たちの調べた市や町の名前を入れ、そこから外に向かっていろいろな情報を書き出しておく。その情報は、5つの条件にかかわったものである。そして、7つの市や町のカードがそろった段階で、



【コースをつくる5つの条件】

- 1 香川らしい自然環境のよさを感じられるか
- 2 伝統や文化のよさを感じることができるか
- 3 香川らしい産業のよさを感じられるか
- 4 地域を大切にしている人の思いにふれられるか
- 5 交通網を利用することで見学ができるか



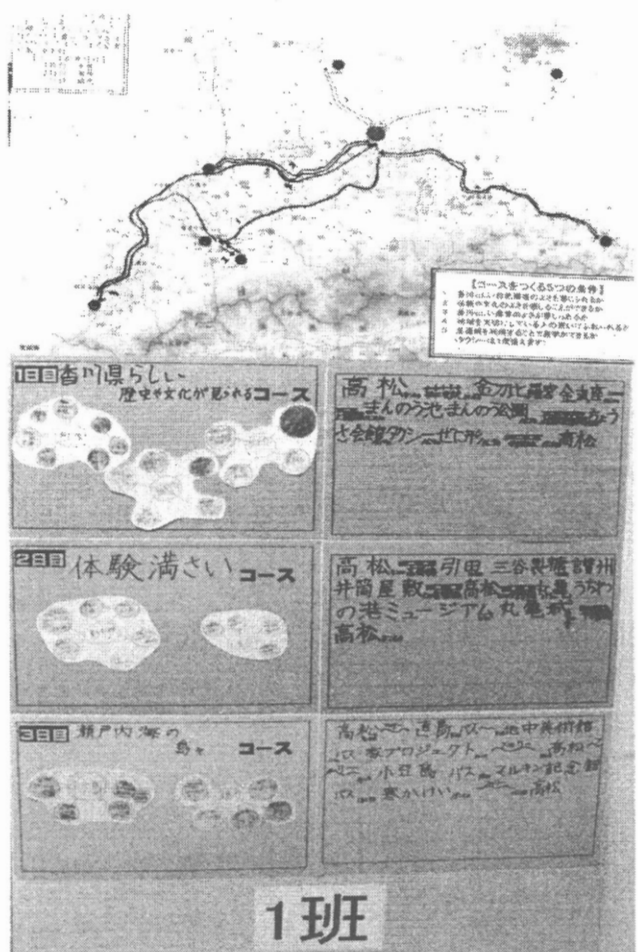
組み合わせていくのである。このことにより、何となく組み合わせずという状況から脱却し、条件を組み合わせずという思考操作を経て、観光コースをつくることができた。右の写真が、前時までに子どもたちがつくりあげたコースである。

本時では、2つのグループが交流し、よりよいコースをつくるということを目的にする。同じようなコースを考えているグループを交流させることによって、自分たちの考えるコースの充実を図っていきたい。

前時の終わりに、1日のコースの紹介文をノートに書かせてみた。順を追っては書けてはいたものの、主張したいことが明確になっておらず、羅列的になってしまった反省がある。

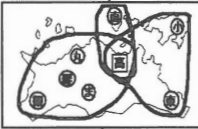
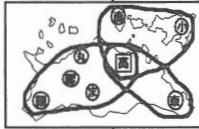
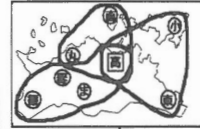
そこで、「さあ、書きましょう。」といっていきなり書かすのではなく、授業の中で、思考操作を取り入れながら、1日のコースを考え、そして、授業の終わりには、その思考図を使って、コース紹介を書くというように、授業を構成してみた。その際に活用したいのが、トライアングル思考図である。具体的な事実から概念を生み出し、構造的な文章が書けるように支援していった。

これまで述べてきたように、言語活動の充実、思考力の育成には欠かせないのである。次に、本時の操作の具体について、「えらぶ」「くらべる」「つなぐ」という思考の過程とつないで述べる。



〈具体例〉

4年 単元「香川のよさを地域資源の保護・活用から探る」

学 習 活 動	自分の伸びを自覚していく過程				
【パフォーマンス課題】 香川県を訪れる観光客が、昔に比べずいぶん減ってきている。県も観光客の増加に向けて、いろいろな取り組みを行っている。そこで、香川県のよさが伝わるようなガイドブックをつくり、楷の木活動で調べている玉藻公園を訪れる観光客の方に発信することで、自分もにぎわいのある香川の実現に取り組もう。					
(前時まで)	5つの条件（自然環境、交通網、伝統や文化、産業、人の営み）を入れてコースをつくったよ。				
1 前時までに学習してきたことをふり返り、本時のめあてをつかむ。	A  B  C  D 				
I 課題意識・探究意欲を高める	グループごとにまとめた観光コースを交流し、5つの条件を満たした香川のよさが伝わる観光コースになるよう工夫しよう。				
2 グループで考えたコースを交流し、よさが伝わるコースについて考える。	<table border="1"><tr><td>琴平を中心にアートや気になる食べ物何でもあります。 アートコース 金比羅コース 特産品コース</td><td>方面別に設定されていて見どころ満載。無理なく回れます。 島周遊コース 和三盆コース 見どころ満載コース</td><td>興味があるものごとのプランです。お好きなコースからどうぞ。 島周遊コース 伝統文化コース 芝居・祭りコース</td><td>どのコースも充実しています。 香川のよさを感じてください。 醤油と産業コース 芸術と産業コース 自然と祭りコース</td></tr></table>	琴平を中心にアートや気になる食べ物何でもあります。 アートコース 金比羅コース 特産品コース	方面別に設定されていて見どころ満載。無理なく回れます。 島周遊コース 和三盆コース 見どころ満載コース	興味があるものごとのプランです。お好きなコースからどうぞ。 島周遊コース 伝統文化コース 芝居・祭りコース	どのコースも充実しています。 香川のよさを感じてください。 醤油と産業コース 芸術と産業コース 自然と祭りコース
琴平を中心にアートや気になる食べ物何でもあります。 アートコース 金比羅コース 特産品コース	方面別に設定されていて見どころ満載。無理なく回れます。 島周遊コース 和三盆コース 見どころ満載コース	興味があるものごとのプランです。お好きなコースからどうぞ。 島周遊コース 伝統文化コース 芝居・祭りコース	どのコースも充実しています。 香川のよさを感じてください。 醤油と産業コース 芸術と産業コース 自然と祭りコース		
(1) お互いのコースについて紹介する。	A' B' 交通機関を考え、方面別のよいところを生かしながら、特色が出るコースにしよう 自然とアートコース 特産品コース 金比羅と自然・祭りコース				
II 教材を学習材(操作材)にして、思考操作をする	C' D' 島のよさ、職人の技をまず見てもらうコースを考えよう。 芸術・産業コース 受け継がれる職人の技コース 自然・祭り・芝居コース				
(2) 2つのグループが協同して新しいコースをつくる。					
3 全体で交流する。					
4 旅行会社の方の話を聞く。	旅行会社の方の話				
5 コースの紹介文を書く。	A" B" C" D" よさの生かし方は違うけれど、県内各地で自分たちの住んでいる地域を活性化するための取り組みがされている。自然環境や伝統・文化などそれぞれの地域の特色を生かした人の営みがあり、県全体のよさを生み出している。				
III 深まった知識を組み入れて表現・論説をして理解を深める	<table border="1"><tr><td>例 (金比羅と自然・祭りコース) 金比羅さんは歴史ある神社で、丸亀うちわは、金比羅参りの土産として発展しました。また、近くには満濃池の周りの緑を生かしたまんのう公園が・・</td><td>例 (芸術・産業コース) 島の景観を生かした美術館、昔ながらの醤油づくり、古いものと新しいものが入り交じり、島の文化をつくっています・・・・・</td></tr></table>	例 (金比羅と自然・祭りコース) 金比羅さんは歴史ある神社で、丸亀うちわは、金比羅参りの土産として発展しました。また、近くには満濃池の周りの緑を生かしたまんのう公園が・・	例 (芸術・産業コース) 島の景観を生かした美術館、昔ながらの醤油づくり、古いものと新しいものが入り交じり、島の文化をつくっています・・・・・		
例 (金比羅と自然・祭りコース) 金比羅さんは歴史ある神社で、丸亀うちわは、金比羅参りの土産として発展しました。また、近くには満濃池の周りの緑を生かしたまんのう公園が・・	例 (芸術・産業コース) 島の景観を生かした美術館、昔ながらの醤油づくり、古いものと新しいものが入り交じり、島の文化をつくっています・・・・・				

② 本時の思考操作

①「えらぶ」… 課題を解決するときに必要な知識・技能を既有的知識群の中から探し出して、喚起する。

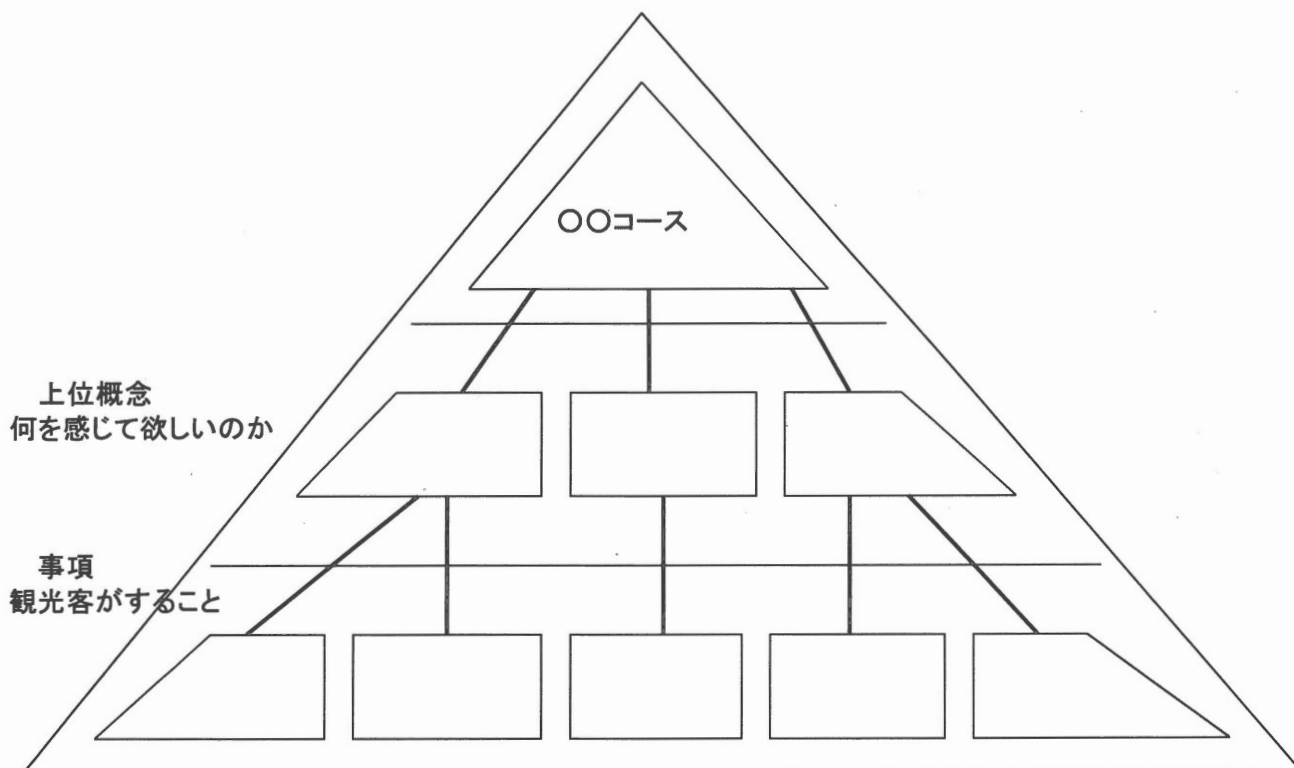
子どもたちは、1日のコースが決まったら、その日に訪ねる市や町の中から、どこを見学すればよいのかということを「えらぶ」。選ぶ基準は、先ほど述べた5つの条件をフィルターとして見ているのである。本時では、時間の都合で、既に子どもたちは選んで、ガイドブックにポストイットとして貼り付けている。今回は、観光客の方がすることという視点で書かせている。

②「くらべる」… 事象・表現・行為そのものを分析したり、他の事象・表現・行為と比較したりして、共通点や相違点を抽出し、観点の発見していく。

選んだカードを数人で持ち寄り、類別を行い、見出しを付ける。この操作により、情報が整理されるとともに、新しい観点の発見も期待される。この段階で、子どもたちは、どういう思いからその観光地を訪ねてほしいと思ったかということを再発見する。

③「つなぐ」… 知識と知識をつないだりつなぎかえたりすることで、その教科において望まれるより高度で洗練された体系へとつくりかえていく。

②によって再構成されたコースの中身について、トライアングル思考図を見ながら、文章化していく。これにより、子どもたちの中にも知識の新しい枠組みができるのである。



トライアングル思考図例

この図をもとに、コースの紹介文を記述する

(7) 本時における評価

本時のルーブリック(例)

評価規準	県内各地域のよさを自分たちの住む高松とくらべることによってつかみ、香川のよさが感じられるような観光コースをつくることを通して、香川の特徴をつかむことができる。
------	---

	ねらいとする段階	評価基準 (単元全体を通して)	本時の評価基準
A (4)	小単元①② 小単元③④ 小単元⑤⑥⑦⑧	自分たちで調べてきたそれぞれの地域のよさ(点)をつないで、香川のよさ(面)をつかむことができる。	自然や伝統・文化、産業や人の営み、交通といった観点を生かして香川のよさが伝わるような観光コースを考えている。また、香川の特徴が出るように構造的に紹介文にまとめられる。
B (3)		自分たちが調べている県内のそれぞれの地域の特徴について、自分たちの住む高松とくらべながら、まとめることができる。	自然や伝統・文化、産業や人の営み、交通といった観点を生かして香川のよさが伝わるような観光コースを考えているが、紹介文は、順を追った説明にとどまっており、意味をもってつなぐことが難しい。
C (2)		自分たちが調べている県内のそれぞれの地域の特徴について、調べた事実をもとにまとめることができる。	各地域をつないだ観光コースになってはいるが、5つの観点の趣旨が理解できていない。そのため、香川の特徴をとらえた紹介文をつくることが難しい。
D (1)		自分たちが調べている県内のそれぞれの地域について、事実を書き出しまとめることができるが、特徴をつかむことは難しい。	

参考文献

「授業改革と学力評価」 北尾 倫彦 図書文化社 2008 年

「子どもの思考力」 滝沢武久 岩波書店 1984 年

「考える・まとめる・表現する」 大庭・コティ・さち子 NTT出版 2009 年

「学ぶ意欲の心理学」 市川伸一 PHP新書 2001 年

「学習心理学」 辰野千寿 教育出版 1994 年

「社会科ノート」による思考力の育成 香社研 2008 年

「社会認識の系統からみた社会科新単元構成(試案)」 香社研 2008 年

「幼・小の連続性に立つ連携交流の在り方」

生活科・総合的な学習全国大会提案 大森明美・合田真理子

その他

平成21年度事業報告

1 定例研究集会

○ 6月定例会（三豊・観音寺）

- ・ 月 日 6月27日（土） 9:30～12:00
- ・ 場 所 観音寺市立中央図書館
- ・ テーマ 個が育ち、生きる社会科学習の創造
－考える力をつけるための社会科学習をめざして－
- ・ 提案者 篠原 正義 先生（三・上高野小）
出濱 大資 先生（観・豊浜小）
4年「ごみのゆくえ」
- ・ 司会者 岸上也寸志 先生（三・詫間小）
- ・ 指導者 臼杵 優 先生（三・詫間小）

○ 7月定例会（高松西）

- ・ 月 日 7月11日（土） 9:30～12:00
- ・ 場 所 高松市ふれあい福祉センター勝賀
- ・ テーマ 「『社会科』における思考力の育成を図る」
－日々の授業実践の充実を目指して－
- ・ 提案者 轟 秀明（下笠居小）・宇喜多孝明（日新小）
4年「水はどこから」
- ・ 司会者 大奥 洋介（円座小）
- ・ 記録者 大石 桂司（香西小）
- ・ 指導者 関根 建一 先生 岡本 英孝 先生

○ 9月定例会（高松南）

- ・ 月 日 9月19日（土）9:30～12:00
- ・ 場 所 香川県立文書館
- ・ テーマ 「『社会科』における思考力の育成を図る」
－日々の授業実践の充実を目指して－
本実践の主張：エンカウンター法を通しての言語活動
- ・ 提案者 蘆原 秀稔（多肥小） 野土 裕彦（川東小） 仁科大成（浅野小）
6年「江戸の文化をつくりあげた人々」
- ・ 司会者 福家 正人（仏生山小）
- ・ 記録者 坪井 孝明（平井小）
- ・ 指導者 高橋 英弐 先生 真鍋 康秀 先生

○ 10月定例会（小豆・さぬき・東かがわ）

- ・ 月 日 10月24日（土）9:30～12:00
- ・ 場 所 附属高松小学校 恵心館 南
- ・ 小豆社研テーマ
基礎・基本の確実な定着とその発展を図る学習の展開
～基礎・基本の内容を習得し、活用・探究の学びを深める社会科学習の在り方～
- ・ 提案者 岸田秀豊（土庄小）
4年「迷路のまち」のガイドブックをつくろう

- ・ さぬき・東かがわテーマ
実生活や実社会とのかかわりを大切にした社会科学学習の展開
～基礎・基本を習得し、活用することにより自立的な学び方を図ることを目指して～
- ・ 提案者 和田千幸 (さ・志度小)
6年「新しい日本, 平和な日本へ」
- ・ 指導者 高橋英武 先生 大高哲也 先生

○ 11月定例会 (高松東)

- ・ 月 日 平成 21 年 11 月 28 日 (土) 9:30 ～ 12:00
- ・ 場 所 高松市立松島小学校
- ・ 高松社研テーマ
「『社会科』における思考力の育成を図る」
一日々の授業実践の充実を目指してー
- ・ 提案者 高橋 洋子 (花園小) 増田泰己 (木太小)
- 6年「わたしたちの願いを実現する政治」
- ・ 指導者 植松 勝 先生 小原 敏昭 先生・

○ 1月定例会 (丸亀社研)

- ・ 月 日 平成 22 年 1 月 16 日 (土) 9:30 ～ 11:50
- ・ 場 所 丸亀市綾歌町栗熊コミュニティセンター
- ・ テーマ 自分づくりの社会科学学習ー基礎基本の定着と自ら学ぶ問題解決能力の育成を求めてー
- ・ 提 案 第5学年 貿易の仕組みを学ぼう 「社会的な見方や考え方を育てる地図指導のあり方」
- ・ 提案者 寒川 英樹 先生 (丸・富熊小)
- ・ 指導者 河津 學 先生 (香社研OB)
- ・ フィールドワーク 快天山古墳 指導 近藤 武司先生 (丸亀市教委)

2 夏季研修会

- ・ 月 日 7 月 2 4 日 (金)
- ・ 場 所 坂出市万葉会館
- ・ 内 容 提案発表, ノートづくり実践演習分科会, 講演
- ・ 提案者 本部提案 : 大嶋 和彦 (附高小)
坂出・綾歌社研提案: 福家 寿夫

分科会 I : ノートづくり実践演習

分科会	単元名	模擬授業提案者
第3学年	「スーパーマーケットではたらく人」	教諭 藤田 順也 (宇多津北小)
第4学年	「きれいな水をつなげるために」	教諭 藤田 真太郎 (坂出西部小)
第5学年	「自動車をつくる工業」	教諭 長沼 裕子 (坂出中央小)
第6学年	「新しい日本, 平和な日本へ」	教諭 西尾 由加 (昭和小)

分科会Ⅱ：新学習指導要領で示された新視点に関する教材開発

単元名	提案者
【良好な生活環境】 4年「水はどこから」	教諭 轟 秀明(高・下笠居小)
【日本の伝統・文化の継承】 6年「貴族の世の中と平安文化」	教諭 岡本 竜也(小・四海小)
【地域に古くから残る建造物】 4年「こんぴらまいり ～灯籠にこめられた思い～」	教諭 渡部 岳史(仲・琴平小)
【世界の主な大陸と海洋】 5年「わたしたちの生活と水産業」	教諭 林 聖士(丸・岡田小)
【良好な生活環境（地域への発信）】 4年「水はどこから」	教諭 黒川 浩一(さ・石田小)
【自然条件から見て特色ある地域】 5年「これからの食料生産とわたしたち」	教諭 久保 範高(高・川添小)
【良好な生活環境】 4年「ごみのしよ理と利用」	教諭 出濱 大資(観・豊浜小)
【自然条件から見て特色ある地域】 5年「米づくりのさかなな庄内平野」	教諭 真鍋 長嗣(高・栗林小)

- ・ 講師 國學院大学 人間開発学部教授 安野 功 先生
「新指導要領“解説”が求める授業モデル」

3 研究委員会（仮称 研究フォーラム）

- (1) 日 時 平成22年2月20日(土)13:30～16:30(受付13:00)
- (2) 場 所 香川大学教育学部附属坂出小学校 体育館(特設暖房有り)
- (3) 目 的
- ・ 各郡市の今年度の実践を交流することを通して、研究への理解を深める。
 - ・ 各郡市ごとの成果と課題を持ち寄り、交流することを通して、来年度の研究の方向性を探る。
- (4) 日 程
- ① 開会 体育館 13:30～ 13:35
 - ② 実践交流（パネル発表） 13:35～14:55
- 13:35～13:40 準備・移動

13:40～14:05 第1回目(さ・東, 高松東, 坂・綾)

14:05～14:30 第2回目(小豆, 高松南, 丸亀)

14:30～14:55 第3回目(高松西, 三・観)

③ 休憩 14:55～15:05

④ パネルディスカッション～本年度の成果と課題から来年度の方向性を探る～

15:05 ～ 15:35 各郡市からの報告（5分×6支部）

15:35 ～ 15:55 パネル討議

15:55 ～ 16:05 まとめと次年度への方向性について

(5) 全体講評 16:05～16:25

香川県教育委員会 義務教育課 主任指導主事 大谷 伸一 先生

(6) 閉会 16:25～16:30

4 基礎・テスト編集委員会

○ 21年度版後期用作成

○ 22年度版前期用作成

香社研だよりvol.1

発行者 香川県小学校社会科教育研究会
香川県小学校教育研究会社会科部会
会長 唐木 裕志
発行日 平成21年7月24日

香社研テーマ

「社会科ノート」による思考力の育成
——新学習指導要領に基づく社会科をひらくカリキュラムによる——

三社研テーマ

個が育ち、生きる社会科学習の創造
——考える力をつけるための社会科学習をめざして——

6月定例会三観集会 第4学年「ごみのゆくえ」の実践を通して
実践提案 観音寺市立豊浜小学校 出濱大資先生 提案 三豊市立上高野小学校 篠原正議先生

1 提案の主張点

- ① 「単元観」の確立をめざす教材研究
- ② 思考操作を伴う表現活動の工夫
- ③ 「切実性のある問い」の研究



2 「単元観」の確立をめざす教材研究

この単元で何を教え、何を考えさせるのか、また、児童の実態や現代社会の課題等もふまえて、複数の教師が教材解釈を話し合う中で、子どもに身につけさせる基礎・基本の内容を明らかにしている。本単元は、新学習指導要領で重視している「持続可能な社会の実現など、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うこと」に適していると考え、実社会・実生活への活用（マナーやモラル・社会的義務や責任）を重視した単元構成を考えた。

(1) 学習指導要領との関連

考えさせる

廃棄物の処理は、計画的、協力的に進められており、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていること。

気づかせる

子どもたちに地域社会の一員として、資源ごみを回収して有効に活用することや再生された製品を利用することが大切であること。
法や自分たちで決めたままりを守ることが大切であること。

態度を育てる

自らも廃棄物の適切な処理や再利用などに協力しようとする。

公
民
的
資
質
の
培
育

(2) ごみ処理を自分の問題としてとらえさせる単元構成

子どもたちにとってのごみとは、「不必要な物」であり、捨てた後のごみの行方について意識している児童は少ない。このような子どもたちに、ごみは「分別すれば資源（必要な物）になる」ということを理解させることでごみに対する意識を変え、ごみを家庭から出す前に、積極的に分別しようとする子どもを育てたいと考えた。

① ごみ収集車のおじさんの話から課題意識をもたせる

人（ごみ収集車のおじさん）との出会いを大切に、ごみ収集や処理に携わる人の苦労や願いを知ること、その人たちのためにも、自分たちが解決しなければならない問題であると考え。

② 知的理解から情的理解へ

ごみ収集車のおじさんとの出会いを単元の後半（10/14 時）に位置づけることで、あらかじめごみ処理の仕組みの全体像を学習した後で、子どもたちに問題意識をもたせることができる。これによって、ごみ処理の全体像を把握している子どもたちは、どこに問題があるのかが明確になり、自分たちの生活を振り返る必要性を感じることができる。

3 思考操作を伴う表現活動の工夫

(1) つなぎ言葉を支援として活用する

授業の中で、教師が子どもの発言を取り上げる際に、「例えばどうということ？」と投げかけて、子どもたちの思考を促している。

日常的に「例えば」を意識している子どもたちは、説明をする際に、教室に掲示してある資料の前へ行き指さしながら説明したり、前へ出て具体物を活用したり、より具体的に説明しようとしている。子どもたちが自分の考えを具体的に語ることににより、子どもたちの思考は明確になり、発言する側、聞く側の思考を深めたり、新たな問いを生じさせたりすることへもつながる。

(2) つなぎ言葉を使ってまとめる

授業の終末で、自分の考えをまとめさせるとき、ただ漠然と書かせるのではなく、意図的に「つなぎ言葉」を指定して書かせる試みを行っている。本時の場合は、抽象的な言葉の意味を具体化する「たとえば」というつなぎ言葉を指定した。それは、子どもたちがこれから実践する具体的な内容が明確になり、評価の一助となるからである。

〈前文〉

これからは、廃プラスチックをきちんと分別していきたい。

＋ たとえば（どういふことをしたいの？）

- ・ お菓子を食ったら、外側の紙の箱と中の廃プラスチックの袋をきちんと分けます。
- ・ 部屋にごみ箱を2つ置いて、きちんと分別できるようにします。
- ・ 表示をきちんと見て、間違えずに分けるようにします。

4 「切実性のある問い」の研究

子どもたちは社会事象を見るときに、それぞれ自分の知識・経験と照らし合わせながら理解しようとする。そのため、1つの社会事象を集団の中に提示すると、知識・経験が個によって違うので理解度や認識に一人ひとり違いが出たり、提示された社会事象と子どもたちの社会認識にズレが生じたりする。この違いやズレの原因を突き止めようとする「問い」こそが「切実性のある問い」である。

○ 自分のごみの分別意識（モラル）を問う

観音寺市は7月から燃えるごみの袋が半透明になる。そこで子どもたちは「なぜ、観音寺市は燃えるごみの袋を半透明にしたのだろう」と半透明にする意味を考える。市のねらいは、燃えるごみを減らすためであるが、半透明のごみ袋にすると本当に燃えるごみが減るのかと考えたときに、きちんと分別しなければ意味がないことに気づく。そこで、ごみの分別について話し合う中で「わたしたちはきちんと分別できているのか」という本質に迫る問いが生まれると考えた。

5 討議

- 「なぜごみ袋を半透明にしたのか」→「自分たちはできているのか」という流れでは、子どもの意識の流れが途切れている。
- 燃えるごみと燃えないごみの量の推移はどうなっているのか。
 - ・ 燃えるごみは年々増えている。燃えないごみは減っているが、それは、ビンやペットボトルなどがリサイクルされるようになったからである。
- なぜ半透明にしたのかという問いはどういうふうになされたのか。
 - ・ 観音寺市は7月から半透明の袋になる。この課題は教師から出して考えさせた課題であるが、タイムリーなもので、子どもたちの生活にも関連しているので、子どもたちの気づきを押してみて課題となった。
- 自治体によって分別の仕方が大きく違うと思った。綾歌町では、丸亀市になって大きく変わった。半透明にした理由は、ごみの担当者のごみ収集にあたる人に聞いたらいいのではないかと思う。
- ごみに対する意識が低い子どもにどうやってごみ調べに取り組ませたのか。
 - ・ 「1週間ごみ調べをしましょう」という課題を出して、家のごみの分別をさせた。自分たちでしてみると大変だった。大変なのになぜ分けるのだろうという疑問をもち、ごみの処理の仕方を調べていった。そして、パッカー車のおじさんの話を聞くことで、観音寺のごみ処理の課題に気づき、地域の取り組みを調べていった。

◇ 代案を作るグループ討議

自分たちの分別意識を問い、モラルを高めていくことができるような学習になるように代案を考え、発表した。

- ・ 燃えるごみの袋と廃プラスチックの両方のカードを切るの難しい。そこで、RPF（廃プラスチックから作られる燃料）は何だろうというところから入ったらどうだろう。RPFは宝物だよというプラスイメージをつけていき、そして、自分たちの生活はどうかと考えることでみんなが分別していこうと考えるようになるのではないかな。
- ・ 自分たちがごみ処理をしていかなければいけない。みんなが分別するようになるにはどうしたらいいのだろうかを考えていきたい。他の地域の例を出して、ごみ袋の透明化などで燃えるごみの量が一度は減るがだんだん増えていくということから、一人ひとりが気をつけていかなければならないことに気づかせるようにする。

6 御指導 三豊市立詫間小学校 教頭 臼杵 優先生

- 今の子どもたちのとらえ方
ごみに関する意識は、親の考えや地域性により千差万別である。昔と今は比べられない。現状が子どもたちにとっての今である。資源回収業者の方が、ごみは資源と何度も言っていた。ごみでなく資源であるという捉え方が大切である。
授業においては、思考、判断、表現する活動をどう組織するかを考えなければいけない。ごみ新聞の作成など、意図的な取り組みが大切である。
- 提案について
モラル（マナー）を社会科学習でどう取り上げるか。人との関わりの中で公民的資質を身につけていく。
ごみの分別の仕方を考える価値は、地域の一住民として、ごみを窓口にして考える力を育てることである。
学習指導要領に基づいた今日的課題である。
学習の展開として、事実データなどから人を窓口課題解決を図ることも必要でないか。
- 今後の授業改善
具体物を生かすポイント
 - 1 いくつ提示するのか
 - 2 いつ提示するのか
 - 3 どのように提示するのか
教材を自分のものとして取り組んでいかなければいけない。子どもの実態分析を踏まえ、いろいろな子にそれぞれ対応していかなければいけない。

【編集後記】本年度1回目の定例会が行われました。出演先生の子どもの課題意識を大切にしたい授業実践、実践の課題を分析し代案を考えるという討議会、どちらも内容が濃く、たいへん勉強になりました。今年度から始まった先輩の先生の講話では、田井校長先生から、考える力を育てるには発問や教材の工夫も大切であるという助言をいただきました。ご尽力いただいた先生方、ありがとうございました。（香社研事務局）

香社研 夏のフィールドワーク 2009

【研修概要】

発足以来伝統的に続いてきた香社研のフィールドワーク。数年ぶりの復活ということで、2009年8月に、盛大に夏のフィールドワークがとり行われた。船をチャーターして、瀬戸内の島々を巡るツアーを企画。瀬戸内海は、古くから交通の要所であり、その周辺には、数多くの価値ある歴史や文化が残されている。その優れた資源を社会科教師として、再度学び直す機会を設定することが本研修の第一目的であった。気持ちのよい潮風を浴び、瀬戸内の昔と今に触れた密度の濃い研修となった。

【日程と行先】

平成21年8月29日30日

参加者数 31名

行先 直島、豊島、櫃石島、鞆の浦、本島、牛島

直島 (三菱マテリアル・地中美術館・ハマチの養殖見学・自由見学)

豊島 (産廃跡地船上見学)

櫃石島(民宿泊・朝見学)

鞆の浦(常夜灯・太田家住宅・昼食)

牛島 (丸尾屋敷跡)

本島 (千歳座・人名年寄墓・塩飽勤番所・笠島城山・笠島街並み学)

【詳細日程】

8月29日

8:45 坂出港発(集合出発)

船

9:30 ベネッセ校船着

徒歩
地中美術館着
バス選択
コース船
はまの養殖見学
家プロジェクト見学

12:30 昼食おみやげ着

13:30 本村港発

船

14:00 宮浦港着

14:12 宮浦港発バス乗車

14:20 環境センター着

15:15 見学終了

15:25 環境センター発

バス

15:35 宮浦着

15:45 宮浦発

船

16:35 豊島 船から見学

船

17:30 櫃石島着

(18:15 坂出港着)

8月30日

6:00 起床

6:30 櫃石島見学

7:30 朝食

8:30 櫃石島発

船

10:00 鞆の浦着
見学

11:00 昼食

12:00 鞆の浦発

船

13:30 本島(笠島港)着
徒歩見学

15:00 本島(笠島港)発

船

15:05 牛島港着
徒歩見学

15:25 牛島港発

16:00 坂出港着 解散

本研修の目的

- ① 瀬戸内海の島々を巡り、教材研究を深める。
- ② 教員同士の親睦を深め、ネットワークを広げていく。
- ③ 教科、世代、男女を問わず参加していただき、香社研の輪を広げていく。

瀬戸内海

古くより瀬戸内海は交通の大動脈として機能した。そのことは魏志倭人伝の記述や日本書紀の国産みの段でイザナミの産んだ島が瀬戸内航路沿いに並んでいることから推察できる。古代においては、倭国(現在の瀬戸内)の管轄した古代港の住吉津を出発地とした遣唐使、遣唐使の航路であったことから、瀬戸内海は、海神である住吉大神を祀る住吉大社の影響下に置かれ各地に住吉神を祀る住吉神社が建てられた。またこの頃既に瀬戸内海は瀬戸内海の中央に位置するため砂待ちの港町として栄えていた。奈良時代には陸上の交通路(山陽道や南海道)が整備されたが、外国使節が瀬戸内海を通った記録が残っており、瀬戸内航路も引き続いて利用されていたと見られる。平安時代中期は、嵯峨源氏の渡辺綱を模倣とする倭国(現在の瀬戸内)の水軍系氏族の模倣となり、渡辺氏の庶流である肥前国の松浦氏が九州の水軍松浦党の総領となる。藤原純友が瀬戸内海を海賊の模倣として反乱を起こし(承平天慶の乱)、瀬戸内海は、純友の活動舞台となる。伊予国の警固使の模倣が純友を捕らえる。平安時代末期には平治盛が瀬戸内航路を整備し、菅原の瀬戸開闢事業を行ったり、熊島神社の整備を進めたりした。鎌倉時代から戦国時代にかけては、伊予国の越智氏や河野氏ら沿海部や島嶼の武士たちが瀬戸内航路に勢力を張り始め、河野氏や村上氏は海賊大將軍を名乗って海賊(水軍)を組織し、瀬戸内航路を制覇した。豊臣秀吉による海賊禁制を経て江戸時代には水軍勢力が排除され、回船商人らによる西廻り航路の一部として、瀬戸内海は流通の主役の勢を果した。明治時代以降は幹線開通などの本州・四国間交通網の整備、本州・四国間に瀬戸大橋の開通に至って、以前より交通路としての重要性は薄れたが、平成に入っても無数の定期航路が存続している。また、環瀬戸内文化圏という観点から、瀬戸内海を文化交流の場としてとらえ直す試みも行われている。(Wikipediaより)

本研修で、教員同士のネットワークも広がった。来年度も新たなツアー企画を立て、社会科教師としての教材研究を深めると同時に、教師同士のつながりもさらに広げていきたい。

香川県小学校社会科教育研究会

香社研だよりvol. 2

発行者 香川県小学校社会科教育研究会
香川県小学校教育研究会社会科部会
会長 唐木 裕志
発行日 平成21年9月19日

香社研テーマ

「社会科ノート」による思考力の育成
新学習指導要領に基づく社会科をひらくカリキュラムによる

高松市社研テーマ

「社会科」における思考力の育成を図る
日々の授業実践の充実を目指して

7月定例会 高松西ブロック集会 第4学年「水はどこから」の実践を通して
実践提案 高松市立日新小学校 宇喜多 孝明先生 高松市立下笠居小学校 轟 秀明先生

1 提案の主張

- ① 実感を伴って課題を解決することができる単元構成の工夫
- ② 思考力を育てるための資料・学習活動の工夫
- ③ 子ども達の意欲を高める学習課題の設定

2 実感を伴って課題を解決することができる単元構成の工夫

(1) 単元構成の見直し

これまで単元「水はどこから」を学習する時には、学校内や家にある蛇口の数を調べたり、生活の中で水が使われている場面を取り上げたりして、学習に入っていた。今回の実践では、これまでの単元構成ではなく、香川県の地形や気候、近隣の県の一について概観する活動を導入に位置づけ、地形の見方や雨温図の見方の概要を理解した上で学習に取り組むようにした。

(2) 自らが学習課題をもつために

飲料水を確保するために、他の県や市の人々の協力を得なければならないということと、つなげて考えられるように単元構成を工夫することで、児童が課題解決をする足掛かりと考えた。

3 思考力を育てるための資料・学習活動の工夫

(1) 白地図に水の流れを表す

児童が、根拠を明確にして課題を考えられるようにする活動を行うことで、思考力を育てることができるのではないかと考え、資料提示の仕方や学習活動を工夫した。

第1次では、白地図から早明浦ダムを見つかったり、香川県の特徴を概観したりする。第2次では、身近な水の流れを表にまとめたり、観察したりする。第3次では、香川用水の水の流れを白地図にまとめたり、施設の位置や仕組みをカード操作したりしながら理解する。

(2) 資料提示の工夫

香川用水取水計画の資料を丁寧に読み取るために、最初はグラフの一部を隠し提示した。そうすることで、資料をより把握しやすくし、読み取りが苦手な児童にも有効な手立てであった。そして、使用目的による香川用水の使用量を絵図にまとめる活動を行った。

4 子ども達の意欲を高める学習課題の設定

(1) 学習課題の設定

児童自らが節水方法を考えるだけでなく、水を資源ととらえ、有効に利用しようとする態度を育成する学習課題を設定する。単元では、第5次、第6次の学習において、水源を守る活動、香川用水の利用方法について問う学習活動を行う。

(2) 具体物を通して深い理解と意欲化を図る

香川用水が取水制限に入った時に、学習してきたそれぞれの施設はどのように調整を行うのか。この課題を解決するために、施設の働きや仕組みをまとめカードにする。そのカードを操作し、つなげることで、県下に安定した排水を行うためには、それぞれの施設の人々が協力し合わなければならないことを流れ図をもとに理解した。

また、取水制限が行われている様子を簡易実験を行うことで、排水を調整する様子がわかるよう

な手立てを行った。

5 討議

- 過去の渇水事例を具体的に子ども達へどのように指導したのか。
 - ・ 現段階では生活に困るとまでは、押さえていない。しかし、子ども達は、プールが出来ない事実につぶかったり、給水所へ水をもらいに行く様子を見たりしている。このことについては、第4次・第5次で扱う予定である。
 - ・ 子ども達の普段の生活の中で、米作りや作物を育てる経験がないため、水を使う場面を想定して予測させる。
- 従来の指導計画との違いは、具体的に何か。
- 学習意欲、学習課題作り→単元を通しての課題は何か。
 - ・ 香川県の概観を知った上で学習に入ること、より理解しやすかった。また、水不足が心配される時期と重なることで、水不足の報道等で早明浦ダムの場所を知るのは有効であった。
 - ・ 違和感はあった。身近な問題から入る方法もあるように思った。
- 子ども達の立つ位置から指導している。
- 実感を伴うことについて→軽く扱われているのではないか。本当の意味での実感を伴うとは、子どもの変容のどの部分で、実感を伴っていたのか。また、何によって実感を伴ったと言えるのか。
 - ・ 実感を伴うということは非常に難しいが、子どものノートに絵図として表れている。
- 思考力や学習活動について→第1次の学習が、2次3次でどのように生きてきたのか。
- 第1次に地形、気候を取り上げて、技能単元として扱うことで、今後の授業では、地名などの位置関係の把握に役立った。
- 子どもは、写真を切って貼るだけでは、なかなか分らない。理解させるためには、言語活動を行うことで思考が深まり、考えが整理できるのではないか。
- 新しい知識を取り入れる学習があったり、考えを深める学習があったりして特色ある単元である。そのため、どこで何を思考させるのかが大切である。
- 5年生でも地形を理解するのが難しい、そのため、地勢図だけでなく、立体模型や立体地図を取り入れてはどうだったであろうか。
- 同じ単元でも、本提案のように、2つの展開の仕方がある。このように、社会科の教材は、地域や学校の実態、クラスの子どもの実態に合わせてカリキュラムをつくるのが大切。
- 1994年の渇水をどこかでしっかりと学んでほしい。過去から現在を見る時、そこには必ず、人々の工夫や、努力が存在している。工夫は知恵、努力は汗に置き換えられ、それらを学び、感じることで、節水の意識はさらに実感を伴ったものになるのではないか。

6 御指導 高松市教育委員会 義務教育課 岡本 英孝 指導主事

- **子どもの変容をめざして単元構成を工夫**
(学習指導要領より)
 - 1. 技能の習得
 - 2. 思考力・判断力の育成
 - 3. 意欲化を図る
- **生きる力**
 - ・ 教科書や副読本は、保護者にとってもいい教材である。その中で、どんな内容であるのかや、中心教材は何であるのかを分析しなければならない。
「高松の今とむかし」を使って何を、どのように学ぶのかが明確であった。また、より深く掘り下げるため、具体的な実験を取り入れることは、ひとりひとりを大事にした授業である。
- **実感を伴うこと**
経験・体験・生の声をつなぐことから、実感が伴ってくるのではないか。
また、自分でやってみて苦しんで分かった時に実感が伴う理解があるのではないか。

香社研だより vol.3

発行者 香川県小学校社会科教育研究会
香川県小学校教育研究会社会科部会
会長 唐木裕志
発行日 平成21年10月24日

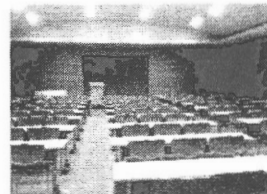
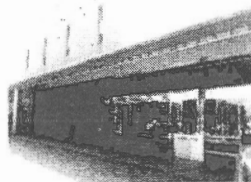
平成21年9月 香社研 定例研 於 香川県立文書館

○授業実践：高松市立多肥小学校 蘆原秀稔先生

○提案：高松市立浅野小学校 仁科大成先生

○単元：6年「江戸の文化をつくりあげた人々」

○主張点



- (1) 歴史観の「つながり」をとらえる
- (2) 新しい社会への変化に気づく
- (3) 思考力の育成
- (4) 言語活動の重視

○主張の具体

(1) について

学習指導要領 オの内容 → カの内容 → キの内容の順で学習していくが、そのつながり（→の部分）をとらえることで、子どもたちに歴史観が育っていくと考えた。江戸時代の時代背景から、町人文化の栄えをとらえたことは有意義だった。

(2) について

「町人や百姓の力が強くなった」という事実を、歌舞伎・浮世絵・小説を作った人と見た人の気持ちの接点、経済力の向上、技術力の向上、教育力の向上の4観点でとらえることで、子どもたちには分かりやすい手立てとなった。

(3) について

町人文化が栄えたわけを探るために、エンカウンター法での交流をさせた。付箋紙を用いて、各自が調べたことを友だちに説明し、質問を受け付け、カード操作していく作業を班の中で繰り返した。そうしたことで、町人文化が栄えたわけを、一人ひとりがよく考えることができた。

(4) について

1～2時間の学習毎に、「論述」する学習活動を設定した。基礎・基本の定着がより一層図れた。文章の書き方のアウトラインを示したことも、子どもが書きやすいよい支援となった。

○提案 構成的グループエンカウンターを用いた社会科における思考力の育成

社会科では児童の思考力育成のために、グループをつくり、意図的に交流場面をつくるのが日常的になされている。Aの考えをもつ児童が、交流することでAの考えとなることをねらった学習活動は、すでにグループエンカウンター的な要素を含んだ活動であるといえる。だからこそ構成的グループ・エンカウンターへの認識を高め、その手法を社会科の教科指導へ取り入れることは、交流の幅をコントロールし、精度を高める手立てとなると考えられる。

○討議記録

(1) エンカウンター法について

- ・基礎基本の定着と、授業を通しての仲間づくりという点で貴重な実践である。
- ・カードに書かれた内容が、どれだけ根拠や思考を伴っているかが大切である。
- ・何を教材にし、どう構成的に仕組み、どうエンカウンターしていけば社会科の概念に行きつくのかということを、今後も市社研に研究してほしい。

(2) 授業について

- ・板書、ノート、交流の仕方などが具体的に示されており、大変ありがたい実践発表であった。
- ・「経済・技術・教育」の観点で歴史観をとらえるのが斬新であった。
- ・絵年表を見て学習課題をつくるよりも、室町文化との比較から入った方が、子どもは自然に疑問をもてたのではないだろうか。
- ・歌舞伎や浮世絵のほかに、「小説」も文化として取り上げられるのはおもしろく、勉強になった。

(3) 今後の定例会の持ち方について

- ・エンカウンターを教師が実際に体験できる場を、定例会などでもつことが、日々の授業実践につながるともいえる。

○御指導 東部教育事務所 真鍋 康秀 指導主事

- ・江戸時代は教材研究をすればするほど、おもしろい事象がたくさんある。蘆原先生の教材研究が生きた授業実践だった。
- ・「教育力の向上」一つとっても、その背景には識字率の向上などがある。だから、「教育力の向上」という言葉で押さえずに、子ども自身の言葉で思考を伴った表現をさせてもよかった。
- ・学習状況調査によると、香川県の児童は自尊感情の低さに課題がある。エンカウンターはそれを克服できる可能性のある手法である。
- ・エンカウンターのポイントとなるのは、「あなたの意見いいね」と感じさせられるところにある。蘆原先生の実践にもあった「〇〇くんの意見から～ということが分かった」と、個人名が振り返りなどで出てくることが大切である。
- ・学級の実態をよく考えてグループの人数を決める必要がある。（「3名」全員が発言する責任感が生まれてよい。）1回の交流で、3つの事象を比較するのは大人でも難しいから、2つの事象を比較させる方がよい。

○御指導 前香社研会長 高橋英式 先生

- ・社会は常に動いているし、情報があふれている。調べていけば、もっともっとおもしろい情報がある。教師がもっと歩き、学んで、日本人の誇りを子どもに伝えてほしい。教材研究の中心はフィールドワークである。

【編集後記】

林町の香川県立図書館と併設されている文書館で行われた第3回定例研。約200名は収容できる視聴覚ホールで盛大に行われました。今回のテーマは「町人の文化や新しい学問」。指導要領改訂では、「伝統や文化」を一層重視するために、現在の生活につながるの深い文化が単独で内容項目に示されています。非常に興味深いテーマを、エンカウンター法を用いて授業を展開し、価値ある交流が図れたことに本提案の意義があると感じました。何を教材にし、どう構成的に仕組み、どうエンカウンターを取り入れていけば概念獲得に行きつくのかということを、今後も研究していきたいと思いました。また、先輩の先生の講話では、前香社研会長の高橋英式先生が、足を使つての教材研究の大切さを改めて教えてくださいました。今回の定例研で提案された先生方をはじめ、ご尽力いただいた先生方にお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

香社研だよりvol.4

発行者 香川県小学校社会科教育研究会
香川県小学校教育研究会社会科部会
会 長 唐 木 裕 志
発行日 平成 21 年 11 月 28 日

香社研テーマ

「社会科ノート」による思考力の育成
－新学習指導要領に基づく社会科をひらくカリキュラムによる－
平成 21 年度研究の視点「学ぶ意欲を高める学習の工夫」

小豆社研テーマ

基礎・基本の確実な定着とその発展を図る学習の展開
－基礎・基本の内容を習得し、活用・探究の学びを深める社会科学学習の在り方－

さ・東社研テーマ

実生活や実社会とのかかわりを大切にした社会科学学習の展開
－基礎・基本を習得し、活用することにより自立的な学び方を図ることを目指して－

10 月定例会 小豆、さぬき・東かがわ集会（於：附属高松小学校）

1 実践提案 土庄町立土庄小学校 岸田秀豊先生（第 4 学年「迷路のまちのガイドマップを作ろう」）

（1）提案の主張

- ① 教科書にない地域の学習材を開発する。学習材を子どもが見つけ、子どもの意欲や意識をもとに指導計画を立てる。
- ② 調べて分かったことをポスターにまとめ、そのポスターをまとめてガイドブックを作る。そのガイドブックを基に家族や地域の人を対象に案内し、社会参画をめざす。

（2）教師の支援

①外部との連携（ボランティアガイドの有効活用）

「迷路のまち」を知るために、まずボランティアガイドをしてもらう場を設定した。子どもが地域社会に入っていく一歩である。

②情報発信力の育成を目指した指導

「迷路のまち」の楽しみ方を伝えるガイドブックを作ろうという目的意識をもたせて表現物を作ったことで、伝えたいことを明確にして情報を発信することができた。また情報を発信することで、町おこしの意識をもった大人に育っていくと考える。

（3）討議

○「迷路のまち」の不便なところや住民の意識について

- ・伝統や文化を大切に、景観を残しながら観光スポットにしたい人と駐車場の確保の問題から、観光名所にするにはまだ早いという人もいる。
- ・地元の人は迷路の町を交通上不便と感じている。

○単元構成の仕方（大単元における本単元の位置づけなど）

- ・地形、他地域、外国とのかかわりを考えながら構成する必要がある。
- ・県内の特色を捉え、第 4 学年の学習につながるようにすることも効果的である。

2 実践提案 さぬき市立志度小学校 和田千幸先生（第 6 学年「新しい日本、平和な日本へ」）

（1）提案の主張

- ① 戦後の復興から東京オリンピックに至る時期の内容は、資料集や事典だけでは資料が少ない。理解を深めるために、DVD 等の視聴覚資料やインターネットを有効に活用する。
- ② DVD やインターネットの言葉は量が多く難しい。そこで、子ども自身が読み取ったことをまとめ、それをもとに交流する場を設定する。

(2) 教師の支援

①DVD等の視聴覚資料やインターネットを有効に活用するために

まずDVD等を手に入れるために、近隣の小中学校から借りた。そして10数本のDVDを集め、その中で教師の意図に沿うもの(児童に捉えさせたいもの)を抽出した。1つのDVDを丸ごと見せるのではなく、1つのDVDの中でどの部分を見せるのかを精選した。

また子どもにDVD等を見せるときに、何のために(目的)何を調べるのか(方法)を押さえた上で見せる必要がある。更にDVDを見せた後、どのように学習を進めるかが大切となる。DVDから読み取ったことを自分の手で抽出し、友だちに伝えるようにした。

②交流を深めるためのノートの活用

DVD等から読み取ったことや考えたことなどを話し合うために、交流の場を設けた。理解を深めるために学習カードを用いた。学習カードとはDVDを見て読み取ったことを解釈し、自分の言葉でまとめたものを書いたカードである(2次資料)。2次資料には、新しく開発(建設)されたもの、当時の様子、技術者の人たちの考えや努力、開発(建設)された後の生活の変容、調べて分かったことや感想などが子どもの言葉で書かれていたことで、円滑に交流が進んだ。

(3) 討議

○教科書をどのように活用したか

・基礎的・基本的な内容について教科書を用いた。導入で戦時中の写真とオリンピックの写真は教科書の写真を用いると捉えやすく、課題意識をもちやすい。

○1次資料から2次資料に移るとき、子どもの意識がスムーズに流れるためにどのような工夫をしたか。

・1次資料(DVD等)では情報量が多すぎるので、ある程度教師が情報を絞り込むことが必要。

○東京オリンピックの意義、外国とのかかわり

・外国から認めてもらえないと(平和、経済的地位など)、オリンピックが開催できない。

3 御指導

(1) 香川県教育委員会義務教育課 主任指導主事 大高哲也先生

○社会参画していく力の育成

- ・ゲストティーチャーの活用の在り方について
- ・社会参画していくことを踏まえた教材開発の必要性について
- ・自分たちの町だけでなく、他地域と比べることによって自分たちの町についての理解が深まる。

○学習指導要領移行期の取り扱い方

- ・平成23年度の5年生は地形の視点からも国土を学ぶため、22年度の4年生においては、地域資源の保護活用という視点から、学習する必要がある。

(2) 前香社研会長 高橋英式先生

○地域と学校とのかかわりについて

- ・地域の中に入っていく必要性について(さぬき市立造田小学校のあじさいロードを例に)

〔 ふるさとについての思いを知事と話し合う場を設ける
あじさいロードを作り、地域と学校で世話をしていく

- ・学校から働きかける、何もなければ作っていく(しかけをするのが教師の仕事)

自分たちで文化を創り出す(誇りをもつ)→時が経てば、それが歴史になる

編集後記

附属高松小学校で開かれた10月定例研修会。今回は、4年生と6年生での提案でした。4年生では、地域から教材を発掘し、児童に社会参画への意識を持たせる実践でした。よりよい社会の形成に参画する資質や能力をいかに養うかを深く考えられたご実践でした。6年生では、児童にとって遠く、難解な問題を、近く、易しく、考えなくなるような問題に変えていく作業が丁寧に行われ、非常に提案性のある発表でした。今回の定例研で提案された先生方、ご指導をくださった大高先生、高橋英式先生には、深くお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

香社研だよりvol.5

発行者 香川県小学校社会科教育研究会
香川県小学校教育研究会社会科部会
会 長 唐 木 裕 志
発行日 平成 22 年 2 月 20 日

香社研テーマ

「社会科ノート」による思考力の育成
新学習指導要領に基づく社会科をひらくカリキュラムによる

高松市社研テーマ

「社会科」における思考力の育成を図る
日々の授業実践の充実を目指して

1 1月定例会 高松東ブロック集会 第6学年「わたしたちの生活と政治」
実践提案 高松市立花園小学校 高橋 洋子先生 高松市立木太小学校 増田 泰己先生



1 提案の主張

- ① 「社会保障」の視点から、高松市の福祉の政策を取り上げて、政治の働きを考える。
- ② 調べたことや考えたことを仕組み図とパブリックコメントに表すことで、表現する力を育てる。
- ③ 道徳の時間との関連を図ったり、地域の人々の福祉への関わりを調べたりすることで、社会参画力の基礎を養う。

2 「社会保障」の視点から、高松市の福祉の政策を取り上げて、政治の働きを考える。

新学習指導要領に「社会保障」が入ってきている。本校は5年生の総合的な学習の時間で福祉学習を行っており、6年生では、政治とどのようにつながっているかを考えさせたかった。そこで、自分たちにとって身近な「はなぞの教室」、高齢者福祉に関する「敬老会」、どの人にも関わりのある「夜間急病診療所」を教材化した。本学級の児童はあまり政治に関心がなかったが、自分たちの身近なところにも政治は関連があることを理解させたかった。

3 調べたことや考えたことを仕組み図とパブリックコメントに表すことで、表現する力を育てる。

政治に関心の薄い子どもへの支援として、表現物「仕組み図」を作成した。吹き出しや絵、写真を活用して端的に表現させた。短い言葉で表現させることで、自分の考えを整理することにもつながった。仕組み図には「人々の願い」「願いの取り入れ方」「施策が実行するまで」「実行の仕組み」の4つの観点によって整理していった。比較する観点が複数（4つの観点）あることで、一人一人がじっくりと思考していくことにつながった。また、この仕組み図は交流にも役に立った。交流の際に、仕組み図を互いに比較しながら共通点、相違点を探る子どもの姿があった。これらのことが、児童の思考力・判断力の育成につながったと考えている。

【仕組み図のメリット】

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ①内容が分かりやすく整理できる | ②人々の思いを言語で表現できる |
| ③仕組み図の比較で、思考の支援になる | ④仕組み図をもとにした交流ができる。 |

また、単元の終末でパブリックコメントを制作し、高松市長さんに自分たちの思いや願いを伝えていく活動を設定した。発信するという目的意識をもつことで学習への意欲化にもつなげることができた。

4 道徳の時間との関連を図ったり、地域の人々の福祉への関わりを調べたりすることで、社会参画力の基礎を養う。

以上のような学習活動から、交流により市の福祉政策は理解したが、自分たちが福祉に参画しているという意識は十分に見いだせなかった。ただ、花園校区は地域のつながりが深く、たくさんの人が地域ボランティアとして関わっている。これらの人々の福祉への関わりについて調べていくことで、自分たちにできることを考える児童に育てたいという願いがあった。

そこで、教師の出番として、はなぞのコミュニティ協議会の山下さんのインタビュー映像を見せる時間をとった。山下さんの肉声を授業で取り上げることで、社会福祉を市政からだけでなく地域からも見られるように配慮し、パブリックコメント作成への意欲へとつながった。花園コミュニティの一員としての自覚を持つためにも、道徳の授業との関連を図った。

5 討議記録

- 目に見えにくい政治学習を分かりやすく教材化していた。
- 仕組み図のふきだしには、いろいろな生の声が入っているが、何からこのような吹き出しをかけるようになったのか？
 - 家庭での聞き取り調査や友人との交流をもとに、人々の思いをふきだしに表現していた。
- 仕組み図を学習材にして交流することで、内容が子どものものになり、交流が意義深いものになったのだと思う。調べる事例は高齢者事業、子育て事業、健康・医療事業の3つあったが、なぜ、多くの事例を扱ったのか？
 - 2つではなく3つを比較することで、子どもたちの見方が広がった。また、福祉といっても様々なものがあることもつかませたかった。また、個々の事象を一般化させたいというねらいもあった。
- 仕組み図にもお金（予算）が出てきており、お金の流れがよく分かるようになっている。また、ボランティアの仕組みもよくまとまっている。ただ、5年生には難しい部分もあるが、5年生のこれまでの体験とどうつなげたのか？
 - 5年生では福祉施設への訪問・交流やサンサン祭りへの参加などを行った。また、はなぞの校区の高齢者に葉ボタンをもっていき、交流をしていく葉ボタン事業にも参加している。ただ、今回の学習をするまでは、なかなか相手意識にまでは至っていなかった。また、今回の学習をすることで、自分たちのこれまでの体験への価値付けもできたのではないかなと思う。
- 交流の段階では表現物はできあがっていたが、そこまで一人でできない子への支援は？
 - 仕組み図の作成にあたって、グループでお互いの表現過程を見られるようにした。また、読み取りが難しい児童には、キーワードを与えたりもした。
- この単元は中3の公民につながる単元である。地域によってお金の配分や行事は違う。地域の実態により、様々な工夫をして行われていることをつかませ、自分たちも大人になったときに参加したり、お金を出すことも必要だという思いを持たせたりすることは大切ではないかと改めて考えさせられた。
- 公民館からコミュニティセンターに代わったのは、名称だけでなく組織や運営も民営化された。市の仕事を移管している。補助金も一括して配分するかわりに、自治会に運営も任せている。今の現状は、どの分野も同じ人が仕切っている。もっと人が代わり、活性化する必要があるのではないかな。
- 子どもの感想を見ていると、「自覚」といえるまでにはまだ一歩足りないような気がする。どこか外から見ている部分があるのではないかな。子どもたちに様々な人の立場に立たせて考えさせることで、もう一歩踏み込めるのではないかな。
- 中学校の子どもたちは、公民は「分からない」「身近ではない」「おもしろくない」という。パブリックコメントの内容がどういったものになるのか、それが意欲化の鍵になるのではないかな。「～してほしい」だけでなく「～したい」という表現がほしい。それが社会参画につながるのではないかな。

6 御指導 高松市教育研究所 小原 敏昭 指導主事

○ 高松市の福祉事業の教材化について

身近な学習材である「はなぞの教室」からスタートすることで、政治や福祉という難しいテーマを身近なものにでき、調べたり、聞きに行ったりするのも容易にできる。また、自分の選択したテーマ（敬老会 or 夜間急病診療所）とはなぞの教室を比較することで、共通点に気付くことができた。ただ、本時は3つのテーマを横につなげて考えることの意図が分かっていなかったもので、子どもにとって難しい交流となった。共通することを探すのか、相違点を探すのかということを手立てとして指導しておく必要があった。

○ 地域の方へのインタビュービデオの扱いについて

山下さんのビデオの取り扱いは良かったか？ビデオのねらいを再構成していくために、もうすこし、分かりやすく板書に示す必要があった。また、自分たちの活動の有益性をとらえさせるために時間をとってふりかえったり、板書に示した上でふり返りの作文を書いたりすると、政治や福祉がより近く感じたのではないかな。さらに、ビデオと自分たちの調べの共通化を図るために、再度仕組み図に書き込ませても良かったのではないかな。

【編集後記】公民分野は「分からない」「身近ではない」「おもしろくない」という子ども達の本音を受け止め、高橋先生は学習材を工夫し、単元を工夫し、授業の展開を工夫されました。目には見えない政治の仕組みを可視化する仕組み図や、単元のゴールを設定し、子どもの意欲を高めたり、社会参画を促したりするパブリックコメントの作成、身近な教材選択など、他の単元でも参考になる工夫がたくさん見られました。子ども主義に立ち、着実に実践を積み上げられた高橋先生のご尽力に感謝申し上げます。

(香社研事務局)

1月定例会丸亀集会

平成 22 年 1 月 16 日（土）於：栗熊コミュニティーセンター

実践提案 「社会的な見方や考え方を育成する地図学習の工夫」

提案者 丸亀市立富熊小学校 寒川英樹 先生

1 社会的な見方や考え方と地図学習

地図には、その土地の名前や位置、地形や広さ産業の様子等様々な情報がある。これらの情報は、社会的事象を認識していく上で、必要不可欠な情報である。地図を自分の学びに活用させることは多面的多角的な見方を育てるとともに、自分たちの住む地域や県、国を深く理解させることにつながる。

2 児童の空間認識から見た地図学習のあり方

- ・低学年 実際に歩いて建物や農作物を観察し、記録する活動。観察したことを絵に描かせ、地図上に配置し、一枚の絵図として表現する。作った絵図を持ち現場に行き対比させたり、教師の描いた絵図と対比させたりすることで、一つ一つの位置関係や場所による違いに気づかせる。
- ・中学年 観察・調査したことを絵図や絵地図に表現する。作成した地図から事実や問題の発見、解決の糸口を読み取る活動を行う。直接観察できない地域の学習では、鳥瞰図や小縮尺の平面地図から自分たちの住む土地と学習対象地域について、遠近、方位、高低などを比較したり、建物や田畑、山、川などの景観を比較したりしながら学習を進め、それぞれの地域の地形や気候の特色を捉えさせる。地図から実物を正しくイメージできるように常に実物の写真や立体模型などと比べる。
- ・高学年 地形図だけでなく統計地図、資料地図などを活用する。年度や数字などから、その地図にある内容の比較や変化を読み取る。他の資料や地図と比較したり、関係付けたりしながら読み、学習問題に関わる答えを発見させる。児童が収集した資料から目的にそった地図に表現する。世界については、平面地図と共に地球儀を活用して学習を進める。

3 位置の認知地図化

学習の中で確かな認知地図を形成するためには、①さす→②なぞる→③つくる過程を経ることが大切である。認知地図化の学習を児童の空間認識の発達と合わせながら取り入れていく。

- ①さす……地図のある地点を指で指すことから始まって、そこに見えてくる地名や地形、土地利用などを頭の中の地図に記憶させること。
- ②なぞる…指で広がり（外周）や海岸線、等高線、鉄道、高速道路などのラインをなぞること。
- ③つくる…白地図で土地利用図を作ったり、調べた内容を記入して主題図を作成したり、地形の模型を作ったりする活動。

4 地図指導のポイント

- ①空間認識の発達段階を考慮すること（学年に応じた空間認識の特長を踏まえた学習活動の工夫）
- ②位置の認知地図化の過程を踏まえること
- ③五感を使った地図の読み取りをすること（フィールドワークで観察した具体を地図と結びつける。）
- ④繰り返し学習をすること（地図を風景を読み取る道具として使い慣れる。）
- ⑤児童の実態を把握すること（知識や技能の習得、地図の好き嫌いの理由、活用頻度などの実態調査。）
- ⑥地図環境の整備（地図の常掲など地図をいつでも使えるように準備しておく。他教科での活用。）

5 実践授業

(1) 4年 習得型「等高線」

①単元名「めざせ！地図マイスター」

第1次（1時間）ー地形図から土地の様子を考えようー

○地図記号、方位記号、縮尺の地図の約束事を確認する。

・地図記号は、実際の場所の写真と比べながら表し、一つ一つ確認した。

・方位記号は、地図上の方位と実際の方位を結びつけながら、八方位を確認した。

・縮尺は、地図帳の縮尺について実際の距離と地図上の距離の関係を考えた。

・4種類の地図アイテムカードを作成した。（アイテムカードはリングで束ねて、机の横につり、いつでも使えるようにした。）

第2次（2時間）ー高さを記号で表そうー

○高さの表し方を考える

・高さで色が違うことを確認し、地形図から高さを表している記号を見つけた。

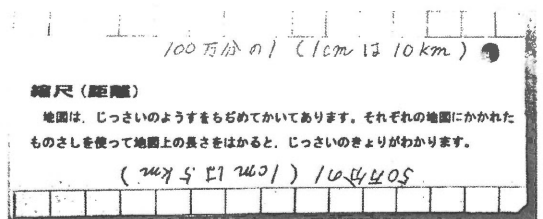
・線がつながっている意味、曲がっている意味を考えた。

○等高線から山の形を考えよう

・山型発泡スチロールを輪切りにしたものの輪切りにした部分にマジックで等高線を描き、高さが同じことを確認した。

・山の模型を完成させ、上から見た形や幅、等高線の広がりや横から見た山の形との関連を考えた

・山型の模型を四方から見てスケッチした。



- ・山を二つ合わせた模型を使って、尾根と谷の地形と等高線についての学習をした。
- ・等高線に沿って手でなぞり、形をより深く認識させるようにした。

②検証結果

地図記号や方位記号に関しては、約10～30ポイントの向上が見られた。等高線は75%の正答率で前年度の児童44%と比較すると高いと言える。しかし、縮尺の伸びは4ポイントであった。

(2) 5年 習得・活用型 「貿易の仕組み」

①単元名「貿易の仕組みを学ぼう」(発展学習)

第1次(2時間)ー貿易の仕組みを詳しく調べようー

○食料生産について考えよう

- ・これからの食料生産について自給率を上げるか、輸入による確保をするのか話し合った。
- ・小麦を例にしてその確保について検討し、今は輸入にたよらざるを得ないことを確認した。

○貿易(輸入)の仕組みを調べよう

- ・買い物と輸入を比較して輸入の煩雑な手続きやリスクについて学習した。

○世界地図の見方と主な地名を覚えよう

- ・世界地図、地球儀の見方を学習し、地球の大きさや外国までの距離、気候の違いなどを知った。

○小麦の輸送ルートを考えよう

- ・アメリカ合衆国からの輸入について教師とともに学習を進め、燃料や費用、日数など輸送ルートを決める条件を考えた。
- ・ヨーロッパからの輸送ルートを考え、ワークシートや白地図にルートや地名がはっきり分かるように書き込み、話し合った。

○小麦の確保について自分の考えをまとめよう

- ・食料の確保についての自分の考えをまとめた。

②検証結果

習得に関する「世界の主な国名や大陸名、海洋名」は19.5%から52.6%に向上した。活用に関して地理的条件や社会的条件からルートを地球儀や世界地図を使って説明できた児童は97.5%であった。全ての児童が今後調べてみたいことを具体的に書くことができ「探求」への意欲化が図れた。

6 討議

- 地図を見て実際の土地のイメージ化が図れる地図学習、ドリル的学習の位置づけと継続化により地図から土地を感じることが出来る児童を育てたい。
- 児童の現実の生活場面に応じて、将来の児童にとって必要な地図学習は何かを追究していくこと。
- 4年生の都道府県名は、ミニテスト等により覚えることが多いが、定着させるためには、様々な知識と結びつけて覚えていくことが必要である。漢字を使って覚えさせる。
- 県の学習で立体地図をつくり、自分の旅行プランを考える学習を計画している。
- そこに暮らす人が見える(産業やくらしとつなげる)地図学習が大切である。
- 地図学習を進める上では時間を確保する工夫が必要である。
- 他教科においてどの学習場面で地図をどのように活用すればよいかを明らかにしていく。

7 御講話 香社研OB 河津 學 先生

- 抽象的な地図を具体的にイメージできるためには、具体と抽象の往復運動を活発化する学びが必要である。(模型や鳥瞰図等の活用)
- 近年、出版されている地図を見るとイラスト地図や鳥瞰図を使って、誰にでもその土地のイメージを描くことができる地図になっている。地図は、イメージが分かるように表すことが大切である。
- 都道府県名は、ゲーム化や遊び化、日常生活化を図り、学べるようにする。
- 社会科教師である前に人間教師でありたい。

■ 快天山古墳フィールドワーク ■

快天山古墳は、丸亀市綾歌町栗熊の小丘陵上に、約1700年前に築かれた古墳である。前期古墳としては、四国最大の規模を誇る。瀬戸内地域全体でも7番目の大きさになる。水準の高い測量や土木技術が見られ、古墳の表面は、段築構造で斜面部には葺石(ふきいし)が葺かれ、テラス部には円筒埴輪が並べられている。埋葬施設は後円部に3か所あり、棺には国内最古の、石を刳り抜いて作った石棺が採用されている。快天山古墳の被葬者は中央にもつながる権力者であったことが推測される。

(講師 丸亀市教育委員会教育部文化課 近藤武司主査)



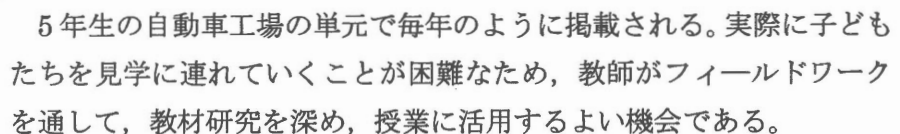
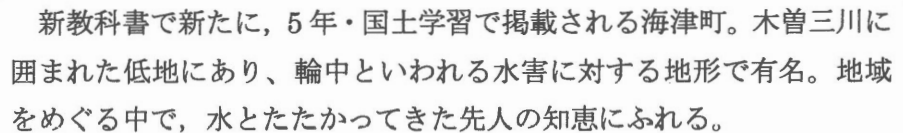
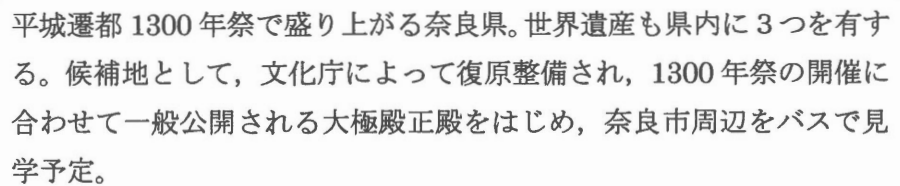
【編集後記】今年度最後の定例会になりました。丸亀社研の寒川英樹先生から、地図学習の工夫についての提案がありました。地図を繰り返し活用し、風景を読み取る道具として使えるようにすることが大切だというお話が印象に残りました。先輩の先生の講話では、ライオンズクラブ国際協会でご活躍されている、河津學元校長先生から、「社会科教師である前に人間教師であれ」というご講話をいただきました。丸亀社研さんが企画してくださった、古墳見学のフィールドワークという試みも、来年度以降につながることが期待されます。ご尽力いただいた先生方、会員の先生方、一年間ありがとうございました。(香社研事務局)

平成 22 年度 香社研フィールドワークのご案内

平成 21 年度のフィールドワークでは、旅行会社のプランにはない、香社研だけのオリジナルツアーを企画しました。1 泊 2 日で瀬戸内海の島々を巡るクルージングを通し、歴史、伝統、文化や、人々の温かい心に触れることができました。参加人数も、30 名を超し、多くの会員様から御好評をいただきました。22 年度も、香社研ならではのプランを立て、香社研会員間のネットワークを広げたり、教材への造詣を深めたりしていきたいと思ひます。香社研の会員でない方の参加も大歓迎です。ぜひ、御一緒に生きた教材研究をしませんか。

-

行 先： ①奈良



日 時： 平成 22 年 8 月 28 日（土）29 日（日）

目 程

日次	月日	行	経	宿泊施設
1	8月28日 (土)	出発 高松市 08:00 ■長良川温泉 17:45 ■夕食はホテル内宴会場にて	貸切バス 高松中央IC 明石海峡大橋 ■昼食 奈良市内 11:30 12:30 平城京遷都1300年祭 12:40 15:00	岐阜グランドホテル ☎ : 058-233-1111
2	8月29日 (日)	ホテル 08:00 解散 高松市 20:00	貸切バス 視察研修 海津市 09:00 11:00 名古屋 12:00 12:50 見学 トヨタ博物館 13:00 14:30 明石海峡大橋 高松中央IC	

≡ バス ≡ タクシー ≡ JR ≡ 私鉄 ≡ 航空 ≡ 船 ≡ 徒歩 ≡ ケブル・ロープウェイ
 ≡ 乗用車

募集人数： 30名から45名（昨年33名）

交通手段：貸し切りバス

費用： 1人18,000円（バス代・宿泊費・食事代など含む。当日集金いたします。）

申込方法： 別紙ファックス用紙にてお申し込みください。

集合場所等： 詳細については、後日、参加者の皆様に連絡いたします。

平成22年度 本部役員組織

【本部役員】

	氏 名	学 校 名
会 長	佐藤 正文	東かがわ市立白鳥小学校
副会長	岡根 淳二	観音寺市立柞田小学校
	徳田 仁司	高松市立国分寺北部小学校
	山田 知志	坂出市立坂出小学校
幹 事	三井 重彰	さぬき市立造田小学校
	日向 光徳	小豆島町立池田小学校
	高橋 祥子	丸亀市立富熊小学校
会 計	藤岡 邦幸	高松市立古高松小学校
監 査	山下 晃	高松市立上西小学校

【顧問】 岩倉 良行 糸川 達 柳 清茂 池内 博
 (歴代会長) 岡野 啓 亀山 信夫 川田 豊弘 亀井 達男
 曾根 照正 中田 清 上川 敦生 丸野 忠義
 古市 聖治 大西 孝典 山崎 敏和 高橋 英次
 唐木 裕志

【事務局】 大嶋 和彦 河田 祥司 黒田 拓志
 山内 秀則 小西 寛

平成22年度 年間研修計画

月	理事会 総会等	運営部			編集部	情報発信部
		定例研修会 研究フォーラム	夏季研修会 (小豆, さ・東)	実地研修	社会科の 基礎・テスト 編集委員会	社会科教室 香社研だより
4	5日(日) 臨時役員会 〈銀星旅館〉 29(水) 理事会, 総会 歓送迎会 〈銀星旅館〉			見学地検討 研修計画作 成・提案	29(水) 13:00～ 第1回 平成22年度2 基礎・テスト 〈銀星旅館〉	
5			22(土) 9:00～ 事前検討会① 〈附属高松小〉	参加者募集 ↓	22(土) 13:30～ 第2回 平成22年度2 基礎・テスト 〈銀星旅館〉	
6	11日(金) 全小社理事会 〈東京〉	26日(土) 9:30～ (丸亀) 栗熊コミュニテ ィーセンター	26日(土) 13:30～ 事前検討会② 〈附属坂出小〉	↓	5(土) 9:00～ 第3回 平成22年度2 基礎・テスト 〈銀星旅館〉	社会科教室 第152号 (総会特集)
7		10日(土) 9:30～ (高松西・南)	10日(土) 13:30～ 事前検討会③ 〈附属高松小〉 17(土) 10:00～ 製本・発送 〈附属高松小〉 27(火) 会場準備 13:00～ 〈志度音楽ホ ール他〉 28(水) 9:00～ 夏季研修会 (小豆, さ・東) 〈志度音楽ホ ール他〉	追加募集		香社研だより (丸亀) 夏季研修会要項 (小豆, さ・東)

8				28日(土) 29日(土) 実地研修 〈奈良, 岐阜, 愛知方面〉		香社研だより (高松西・南)
9		25日(土) 9:30~ (三・観)			25(土) 14:00~ 第1回 平成23年度1 基礎・テスト 〈銀星旅館〉	香社研だより (実地研修報告)
10		16日(土) 9:30~ (高松東)			16日(土) 13:30~ 第2回 平成23年度1 基礎・テスト 〈銀星旅館〉	香社研だより (三・観)
11	18日(木) 19日(金) 全小社全国大会 四国大会 〈徳島〉 四国理事会	13日(土) 9:00~ (坂・綾) 〈西庄小〉			13日(土) 12:30~ 第3回 平成23年度1 基礎・テスト 〈銀星旅館〉	香社研だより (高松東)
12	4(土) 理事会 年末反省会 〈銀星旅館〉				4(土) 13:00~ 第1回 平成23年度2 基礎・テスト 〈銀星旅館〉	香社研だより (坂・綾)
1					15日(土) 9:00~ 第2回 平成23年度2 基礎・テスト 〈銀星旅館〉	
2	19日(土) 年度末反省会 (坂出)	19日(土) 研究フォーラム 13:30~ 〈附属坂出小〉			26日(土) 9:00~ 第3回 平成23年度2 基礎・テスト 〈銀星旅館〉	香社研だより (高松東)
3						香社研だより (研究委員会報告)

平成22年度 各郡市役員名簿

【高松市社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事 (○)
会長	徳田 仁司	校長	高松市立国分寺北部小学校	○
副会長	藤岡 邦幸	校長	高松市立古高松小学校	
副会長	山下 晃	校長	高松市立上西小学校	
副会長	亀井 伸治	校長	高松市立多肥小学校	
庶務	池田 茂樹	教諭	高松市立屋島小学校	○
研究部	野土 裕彦	教諭	高松市立川東小学校	

【高松西社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事 (○)
会長	徳田 仁司	校長	高松市立国分寺北部小学校	○
庶務	大奥 洋介	教諭	高松市立円座小学校	○
庶務	池田 誠	教諭	高松市立国分寺北部小学校	
研究部	轟 秀明	教諭	高松市立下笠居小学校	

【高松東社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事 (○)
会長	藤岡 邦幸	校長	高松市立古高松小学校	○
庶務	桵原 一宏	教諭	高松市立中央小学校	○
庶務	井上 泉	教諭	高松市立高松第一小学校	
研究部	真鍋 長嗣	教諭	高松市立栗林小学校	
研究部	高木 恭子	教諭	高松市立太田小学校	

【高松南社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事 (○)
会長	山下 晃	校長	高松市立上西小学校	○
副会長	亀井 伸治	校長	高松市立多肥小学校	

副会長	森 正彦	校長	三木町立氷上小学校	
庶務	黒川 浩一	教諭	高松市立香南小学校	○
庶務	川原 和生	教諭	高松市立仏生山小学校	
研究部	福家 正人	教諭	高松市立仏生山小学校	
研究部	香西 謙二	教諭	三木町立田中小学校	

【丸亀社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事 (○)
会長	高橋 祥子	校長	丸亀市立富熊小学校	○
副会長	坂東 博文	校長	丸亀市立岡田小学校	
副会長	香川 佳和	教頭	丸亀市立本島小学校	
副会長	合田 吉宏	教頭	丸亀市立城坤小学校	
庶務	寒川 英樹	教諭	丸亀市立富熊小学校	○
庶務	多田 明広	教諭	丸亀市立垂水小学校	
研究部	旅田 敏弘	教諭	丸亀市立垂水小学校	
研究部	眞井 孝征	教諭	丸亀市立飯山南小学校	
研究部	馬場 直明	教諭	丸亀市立飯野小学校	
研究部	林 聖士	教諭	丸亀市立岡田小学校	

【坂出・綾歌社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事 (○)
会長	山田 知志	校長	坂出市立坂出小学校	○
副会長	川中 祥照	校長	坂出市立王越小学校	
副会長	三野 秀則	校長	坂出市立西庄小学校	
庶務	福家 寿夫	教諭	坂出市立東部小学校	○
研究部	宮武 克明	教諭	宇多津町立宇多津北小学校	
研究部	西尾 由加	教諭	綾川町立昭和小学校	

【小豆社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事 (○)
会長	日向 光徳	校長	小豆島町立池田小学校	○
副会長	藤本 修	教頭	小豆島町立安田小学校	
庶務	塩見 強	教諭	小豆島町立池田小学校	○
研究部	瀬名 宏樹	教諭	小豆島町立安田小学校	
研究部	真砂 俊和	教諭	小豆島町立苗羽小学校	
研究部	黒川 幸宣	教諭	土庄町立湊崎小学校	

【さぬき・東かがわ社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事 (○)
会長	三井 重彰	校長	さぬき市立造田小学校	○
副会長	六車 功	教頭	さぬき市立鴨部小学校	
顧問	佐藤 正文	校長	東かがわ市立白鳥小学校	○
庶務	白澤 一修	教諭	さぬき市立富田小学校	○
研究部	永坂 邦彦	教諭	さぬき市立津田小学校	○

【三観社研】

役員名	氏名	職名	学校名	香社研理事 (○)
会長	岡根 淳二	校長	観音寺市立柞田小学校	○
副会長	臼杵 優	教頭	三豊市立柞田小学校	
庶務	篠原 正議	教諭	三豊市立上高野小学校	○
庶務	萬亀 弘吉	教諭	三豊市立下高瀬小学校	
研究部	出濱 大資	教諭	観音寺市立豊浜小学校	
研究部	藤本 博文	教諭	三豊市立本山小学校	

平成22年度 研修会別会員名簿

【高松西社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会	大奥 洋介	教諭	高松市立円座小学校学校
定例研修会	池田 誠	教諭	高松市立国分寺北部小学校
定例研修会	轟 秀明	教諭	高松市立下笠居小学校
定例研修会	葛西 秀樹	教諭	高松市立檀紙小学校
基礎・テスト編集委員	蘆原 秀稔	教諭	高松市立国分寺南部小学校
基礎・テスト編集委員	稲田 耕一	教諭	直島町立直島小学校
基礎・テスト編集委員	池田 誠	教諭	高松市立国分寺北部小学校
基礎・テスト編集委員	平田 郁子	教諭	高松市立国分寺南部小学校
基礎・テスト編集委員	瀧 義幸	教諭	高松市立一宮小学校
社会科情報発信	轟 秀明	教諭	高松市立下笠居小学校

【高松東社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会	池田 茂樹	教諭	高松市立屋島小学校
定例研修会	桎原 一宏	教諭	高松市立中央小学校
定例研修会	井上 泉	教諭	高松市立高松第一小学校
定例研修会	真鍋 長嗣	教諭	高松市立栗林小学校
基礎・テスト編集委員	桎原 一宏	教諭	高松市立中央小学校
基礎・テスト編集委員	柏 徹哉	教諭	高松市立木太小学校
基礎・テスト編集委員	真鍋 長嗣	教諭	高松市立栗林小学校
基礎・テスト編集委員	間嶋 大輔	教諭	高松市立屋島東小学校
基礎・テスト編集委員	岡本 竜也	教諭	高松市立木太南小学校
社会科情報発信	桎原 一宏	教諭	高松市立中央小学校
社会科情報発信	平井小百合	教諭	高松市立中央小学校

【高松南社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会	黒川 浩一	教諭	高松市立香南小学校
定例研修会	川原 和生	教諭	高松市立仏生山小学校
定例研修会	福家 正人	教諭	高松市立仏生山小学校
定例研修会	香西 謙二	教諭	三木町立田中小学校
基礎・テスト編集委員	高重 淳	教諭	三木町立白山小学校
基礎・テスト編集委員	白川 由美	教諭	高松市立多肥小学校
基礎・テスト編集委員	鶴羽 美緒	教諭	高松市立多肥小学校
基礎・テスト編集委員	柴原 照子	教諭	三木町立平井小学校
基礎・テスト編集委員	坪井 孝明	教諭	三木町立平井小学校
基礎・テスト編集委員	安部 幸則	教頭	高松市立上西小学校
社会科情報発信	藤岡 正樹	教諭	三木町立氷上小学校
社会科情報発信	藤澤 大地	教諭	高松市立多肥小学校

【丸亀社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会	梅谷 旬	教諭	丸亀市立城坤小学校
定例研修会	西川 由華	教諭	丸亀市立城乾小学校
定例研修会	長沼 裕子	教諭	丸亀市立城辰小学校
定例研修会	池内 右典	教諭	丸亀市立城辰小学校
基礎・テスト編集委員	山野 正登	主幹教諭	丸亀市立郡家小学校
基礎・テスト編集委員	多田 明広	教諭	丸亀市立垂水小学校
基礎・テスト編集委員	中西 昇	教諭	丸亀市立城北小学校
基礎・テスト編集委員	平田 啓介	教諭	丸亀市立城西小学校
基礎・テスト編集委員	櫻井 道芳	教諭	丸亀市立飯山北小学校
基礎・テスト編集委員	大砂古 佳美	講師	丸亀市立飯山北小学校
社会科情報発信	細谷 奈保子	教諭	丸亀市立城東小学校

【坂出・綾歌社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会	河野 富男	教 諭	宇多津町立宇多津北小学校
定例研修会	大西 浩史	教 諭	坂出市立西庄小学校
定例研修会	田中 秀年	教 諭	坂出市立松山小学校
定例研修会	藤田 順也	教 諭	宇多津町立宇多津北小学校
基礎・テスト編集委員	花房 長広	教 頭	宇多津町立宇多津北小学校
基礎・テスト編集委員	尾畠 良子	教 諭	綾川町立羽床小学校
基礎・テスト編集委員	福家 寿夫	教 諭	坂出市立東部小学校
基礎・テスト編集委員	福家 実樹	教 諭	綾川町立昭和小学校
基礎・テスト編集委員	大高 浩一	教 諭	宇多津町立宇多津小学校
基礎・テスト編集委員	藤田真太郎	教 諭	坂出市立加茂小学校
社会科情報発信	宮武 克明	教 諭	宇多津町立宇多津北小学校
社会科情報発信	西村 和世	教 諭	宇多津町立宇多津北小学校

【小豆社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会	瀬名 宏樹	教諭	小豆島町立安田小学校
定例研修会	塩見 強	教諭	小豆島町立池田小学校
定例研修会	真砂 俊和	教諭	小豆島町立苗羽小学校
定例研修会	黒川 幸宣	教諭	土庄町立湊崎小学校
基礎・テスト編集委員	田村 一郎	教諭	小豆島町立星城小学校
基礎・テスト編集委員	中西 加代	教諭	土庄町立土庄小学校
基礎・テスト編集委員	矢野 真奈美	講師	土庄町立豊島小学校
社会科情報発信	平林 泰徳	教諭	土庄町立北浦小学校

【さぬき・東かがわ社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会	白澤 一修	教諭	さぬき市立富田小学校
定例研修会	高田 宏隆	教諭	東かがわ市立引田小学校
定例研修会	山下 博	教諭	さぬき市立石田小学校
定例研修会	松村 和仁	教諭	東かがわ市立本町小学校
定例研修会	濱松 春水	教諭	東かがわ市立誉水小学校
定例研修会	和田 千幸	教諭	さぬき市立長尾小学校
定例研修会	久保田 直寛	教諭	さぬき市立志度小学校
基礎・テスト編集委員	永坂 邦彦	教諭	さぬき市立津田小学校
基礎・テスト編集委員	仲内 ゆかり	教諭	東かがわ市立本町小学校
基礎・テスト編集委員	白澤 一修	教諭	さぬき市立富田小学校
基礎・テスト編集委員	梅本 明宏	教諭	さぬき市立長尾小学校
基礎・テスト編集委員	近江 麻子	教諭	さぬき市立志度小学校
基礎・テスト編集委員	窪田 史子	教諭	東かがわ市立白鳥小学校
社会科情報発信	久保田直寛	教諭	さぬき市立小田小学校
社会科情報発信	山下 博	教諭	さぬき市立石田小学校

【三観社研】

研修会名	氏名	職名	学校名
定例研修会	篠原 正議	教諭	三豊市立上高野小学校
定例研修会	藤本 博文	教諭	三豊市立本山小学校
定例研修会	合田 雅気	教諭	観音寺市立一ノ谷小学校
定例研修会	安藤 通	教諭	観音寺市立豊浜小学校
定例研修会	出演 大資	教諭	観音寺市立豊浜小学校
定例研修会	萬亀 弘吉	教諭	三豊市立下高瀬小学校
基礎・テスト編集委員	萬亀 弘吉	教諭	三豊市立下高瀬小学校
基礎・テスト編集委員	藤本 博文	教諭	三豊市立本山小学校
基礎・テスト編集委員	安藤 通	教諭	観音寺市立豊浜小学校
基礎・テスト編集委員	出演 大資	教諭	観音寺市立豊浜小学校
基礎・テスト編集委員	岸上 也寸志	教諭	三豊市立詫間小学校
基礎・テスト編集委員	臼杵 優	教頭	観音寺市立柞田小学校
社会科情報発信	黒川 実	教諭	三豊市立大野小学校
社会科情報発信	萬亀 弘吉	教諭	三豊市立下高瀬小学校

平成22年度 香社研 会員名簿

【高松市社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	姫田 朋樹	高松市立亀阜小学校	6年
2	石丸 義久	高松市立一宮小学校	4年
3	大奥 洋介	高松市立円座小学校	3年
4	蓮本 悟美	高松市立鬼無小学校	2年
5	轟 秀明	高松市立下笠居小学校	4年
6	池田 誠	高松市立国分寺北部小学校	6年
7	出口 英治	高松市立国分寺北部小学校	学力支援
8	徳田 仁司	高松市立国分寺北部小学校	校長
9	萱原 照子	高松市立国分寺南部小学校	4年
10	平田 郁子	高松市立国分寺南部小学校	6年
11	蘆原 秀稔	高松市立国分寺南部小学校	少人数
12	黒田 拓志	附属高松小学校	1年
13	河田 祥司	附属高松小学校	3年
14	大嶋 和彦	附属高松小学校	5年
15	稲田 耕一	直島町立直島小学校	6年
16	葛西 秀樹	高松市立檀紙小学校	鳴門教育大
17	福家 正人	高松市立仏生山小学校	6年
18	鶴羽 美緒	高松市立多肥小学校	4年
19	藤澤 大地	高松市立多肥小学校	4年
20	久保 範高	高松市立多肥小学校	主幹
21	亀井 伸治	高松市立多肥小学校	校長
22	森口 英樹	高松市立十河小学校	6年
23	安部 幸則	高松市立上西小学校	教頭
24	山下 晃	高松市立上西小学校	校長
25	宮西 亮輔	高松市立安原小学校	5年
26	森川 美香	高松市立大野小学校	6年
27	野土 裕彦	高松市立川東小学校	6年
28	黒川 浩一	高松市立香南小学校	5年
29	坪井 孝明	三木町立平井小学校	学・生
30	柴原 照子	三木町立平井小学校	4年
31	小笠原 学	三木町立氷上小学校	5年
32	森 正彦	三木町立氷上小学校	校長
33	藤岡 邦幸	高松市立古高松小学校	校長
34	池田 茂樹	高松市立屋島小学校	6年
35	岡本 竜也	高松市立木太南小学校	6年
36	真鍋 長嗣	高松市立栗林小学校	6年
37	井上 泉	高松市立高松第一小学校	6年

38	篠原絵里香	高松市立栗林小学校	5年
39	間嶋 大輔	高松市立屋島東小学校	5年
40	高木 恭子	高松市立太田小学校	4年
41	檜原 一宏	高松市立中央小学校	4年
42	高橋 洋子	高松市立花園小学校	3年
43	柏 徹哉	高松市立木太小学校	3年
44	熊野 真美	高松市立中央小学校	2年
45	平井小百合	高松市立中央小学校	2年

【丸亀社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	高橋 祥子	丸亀市立富熊小学校	校長
2	坂東 博文	丸亀市立岡田小学校	校長
3	香川 佳和	丸亀市立本島小学校	教頭
4	合田 吉宏	丸亀市立城坤小学校	教頭
5	西川 由華	丸亀市立城乾小学校	5年
6	梅谷 旬	丸亀市立城坤小学校	特別支援
7	秋山 侑大	丸亀市立城坤小学校	3年
8	中西 昇	丸亀市立城北小学校	特別支援
9	平田 啓介	丸亀市立城西小学校	3年
10	高木 弘信	丸亀市立城南小学校	4年
11	平澤 昌司	丸亀市立城南小学校	特別支援
12	北分 英樹	丸亀市立城東小学校	5年
13	細谷 奈保子	丸亀市立城東小学校	6年
14	長沼 裕子	丸亀市立城辰小学校	4年
15	池内 右典	丸亀市立城辰小学校	少人数
16	山野 正登	丸亀市立郡家小学校	専科
17	久保山 学	丸亀市立郡家小学校	教頭
18	片岡 由起子	丸亀市立郡家小学校	5年
19	和田 早苗	丸亀市立飯野小学校	3年
20	馬場 直明	丸亀市立飯野小学校	5年
21	多田 明広	丸亀市立垂水小学校	6年
22	旅田 敏弘	丸亀市立垂水小学校	少人数
23	岡野 雄太郎	丸亀市立垂水小学校	専科
24	寒川 英樹	丸亀市立富熊小学校	6年
25	林 聖士	丸亀市立岡田小学校	6年
26	吉田 良三	丸亀市立飯山北小学校	5年
27	櫻井 道芳	丸亀市立飯山北小学校	6年
28	大砂古 佳美	丸亀市立飯山北小学校	4年
29	眞井 孝征	丸亀市立飯山南小学校	5年

【坂出・綾歌社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	山田 知志	坂出市立坂出小学校	校長
2	川中 祥照	坂出市立王越小学校	校長
3	三野 秀行	坂出市立西庄小学校	校長
4	田井 敏之	坂出市立東部小学校	教頭
5	野村 亮子	坂出市立西庄小学校	教頭
6	花房 長広	宇多津町立宇多津北小学校	教頭
7	吉田 和弘	坂出市立川津小学校	教頭
8	丸尾 ルミ子	坂出市立東部小学校	3年
9	福家 寿夫	坂出市立東部小学校	少人数
10	山西 由里子	坂出市立金山小学校	特支
11	大西 浩史	坂出市立西庄小学校	4年
12	藤田真太郎	坂出市立加茂小学校	特支
13	丸尾 浩一	坂出市立加茂小学校	3年
14	田中 秀年	坂出市立松山小学校	特支
15	土岐味代子	綾川町立綾上小学校	6年
16	宇山 知昌	綾川町立綾上小学校	特支
17	西尾 由加	綾川町立昭和小学校	6年
18	福家 実樹	綾川町立昭和小学校	3年
19	青木 弥生	綾川町立陶小学校	5年
20	檜原 佳代	綾川町立陶小学校	3年
21	尾畠 良子	綾川町立羽床小学校	2年
22	大高 浩一	宇多津町立宇多津小学校	社会科専科
23	佐藤 真澄	宇多津町立宇多津小学校	特支
24	中川峰子	宇多津町立宇多津北小学校	4年
25	河野 富男	宇多津町立宇多津北小学校	2年
26	宮武 克明	宇多津町立宇多津北小学校	6年
27	藤田 順也	宇多津町立宇多津北小学校	4年
28	西村 和世	宇多津町立宇多津北小学校	6年

【小豆社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	日向 光徳	小豆島町立池田小学校	校長
2	藤本 修	小豆島町立安田小学校	教頭
3	塩見 強	小豆島町立池田小学校	特別支援
4	中西 加代	土庄町立土庄小学校	特別支援
5	黒川 幸宣	土庄町立湊崎小学校	3年
6	平林 泰徳	土庄町立北浦小学校	学校生活支援
7	矢野 真奈美	土庄町立豊島小学校	3年
8	田村 一郎	小豆島町立星城小学校	学力支援
9	瀬名 宏樹	小豆島町立安田小学校	学力支援
10	真砂 俊和	小豆島町立苗羽小学校	6年

【さぬき・東かがわ社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	佐藤 正文	東かがわ市立白鳥小学校	校長
2	三井 重彰	さぬき市立造田小学校	校長
3	六車 功	さぬき市立鴨部小学校	教頭
4	広瀬 強	さぬき市立長尾小学校	教頭
5	高田 宏隆	東かがわ市立引田小学校	4年
6	橋本 義人	東かがわ市立引田小学校	特別支援
7	松村 和仁	東かがわ市立本町小学校	4年
8	仲内 ゆかり	東かがわ市立本町小学校	4年
9	窪田 史子	東かがわ市立白鳥小学校	特別支援
10	沖 肅二	東かがわ市立三本松小学校	4年
11	濱松 春水	東かがわ市立誉水小学校	5年
12	永坂 邦彦	さぬき市立津田小学校	6年
13	白澤 一修	さぬき市立富田小学校	6年
14	久保田 直寛	さぬき市立志度小学校	4年
15	山下 博	さぬき市立石田小学校	特別支援
16	和田 千幸	さぬき市立長尾小学校	専科
17	梅本 明宏	さぬき市立長尾小学校	2年
18	近江 麻子	さぬき市立志度小学校	4年
19	松原 伸二	さぬき市立造田小学校	4年
20	村上 勝	さぬき市立鴨部小学校	3年
21	山下 勝	東かがわ市立丹生小学校	5年
22	六車 浩	東かがわ市立相生小学校	3年

【三観社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	岡根 淳二	観音寺市立柞田小学校	校長
2	柴田 英明	観音寺市立観音寺南小学校	校長
3	臼杵 優	観音寺市立柞田小学校	教頭
4	高橋 克佳	三豊市立上高瀬小学校	教頭
5	安藤 通	観音寺市立豊浜小学校	5年
6	出濱 大資	観音寺市立豊浜小学校	4年
7	合田 雅気	観音寺市立一ノ谷小学校	
8	黒川 実	三豊市立大野小学校	3年
9	藤本 博文	三豊市立本山小学校	5年
10	篠原 正議	三豊市立上高野小学校	支援担当
11	岩田 典男	三豊市立比地小学校	5・6年
12	萬亀 弘吉	三豊市立下高瀬小学校	5年
13	岸上 也寸志	三豊市立詫間小学校	3年
14	村上 輝司	観音寺市立大野原小学校	5年

【仲善社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	田中 直樹	まんのう町立琴南小学校	校長
2	福家 親夫	多度津町立四箇小学校	校長
3	寺嶋 俊秀	多度津町立四箇小学校	教頭

平成22年度 香社研(香小研社会科部会)連絡網

